

久喜市の地域福祉に関する アンケート調査結果報告書

令和3年10月

久喜市・社会福祉法人久喜市社会福祉協議会

目次

1 調査概要

(1)調査の目的	1
(2)調査の対象及びサンプル数	1
(3)分析・表示について	1

2 市民アンケート調査の結果

(1)回答者の属性について

年齢	2
就労等の状況	2
居住地区	3
居住年数	3
家族構成	4

(2)地域での助け合い、支え合いについての質問

近所とのお付き合い	5
地域活動への参加	6
参加している地域活動の内容	7
地域活動に参加していない理由	8
日常の困りごとについての相談者	9
相談していない理由	10
地域の人にしてほしい手助け	11
地域での支援を受けたことがあるか	12
困った時に手助けを求められるか	13
地域での手助けは誰にしてほしいか	14
あなたができる手助けはあるか	15
地域内で課題と感じていること	16
地域課題に対応するために必要なこと	17
災害時の住民同士の支援	18
災害時に住民が支え合う地域づくりに必要なこと	19

(3)ボランティア活動等についての質問

ボランティア活動等への参加の有無	20
ボランティア活動等の内容	21
ボランティア活動等に参加したことがない理由	22
ヤングケアラーの認知度	23
ヤングケアラーの把握	23
ボランティア活動等を活発化するために必要なこと	24

(4)再犯防止についての質問

社会を明るくする運動の認知度	25
再犯防止について行政が取組むべきもの	26
再犯防止の取組みに対する考え方	27

(5)成年後見制度についての質問

成年後見制度の認知度	28
任意後見制度を利用したいか	28
成年後見制度について思うこと	29

(6) 地域福祉全般についての質問	
地域福祉の認知度	30
地域福祉に対する考え方	31
相談窓口について(包括的な支援体制)	32
相談機関に求めること	33
地域福祉充実のために優先的に取組むこと	34

(7) 久喜市社会福祉協議会についての質問	
社会福祉協議会や活動の認知度	35
社会福祉協議会の活動内容についての認知度	36
ボランティア活動等を活性化するために社会福祉協議会が取組むこと	37
地域福祉を進めていく上での自由意見	38

3 高校生アンケート調査の結果

(1) 回答者の属性についての質問	
居住の地区	43

(2) 地域での助け合い、支え合いについての質問	
近所とお付き合い	43
地域活動への参加の有無	44
今後の参加状況の有無	45
地域内で問題と感じていること	46
地域課題に対応するために必要なこと	47
災害時に住民が支え合う地域づくりに必要なこと	48

(3) ボランティア活動等についての質問	
ボランティア活動等への参加の有無	49
今後の参加状況の有無	50
誰と一緒にボランティア活動を行ったか	51
ボランティア活動をしたきっかけ	52
ボランティア活動に参加したことが無い理由	53
ヤングケアラーの認知度	54
ヤングケアラーの把握	54

(4) 再犯防止についての質問	
再犯防止について行政が取組むべきこと	55
再犯防止に対する考え方	56

(5) 地域福祉全般についての質問	
地域福祉の認知度	57
地域福祉に対する考え方	58

地域福祉を進めていく上での自由意見	59
-------------------	----

資料(調査票)	61
---------	----

1 調査概要

(1) 調査の目的

久喜市と久喜市社会福祉協議会では、平成29年度から令和4年度までの6年間を計画期間とする、「みんなでつくる福祉のまち 第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画」を策定し、「ともに生き、ともに安心して暮らすことのできる地域社会づくり」を推進しています。現在の計画は、令和4年度に目標年次を迎えるため、市では、令和5年度から令和9年度までの5年間を計画期間とする「第3次地域福祉計画・地域福祉活動計画」の策定に取り組んでいます。

今回の調査は、前回調査の結果と比較することで計画の進捗状況等を判断するとともに、市民の地域福祉に関する意向や現状を把握し、地域の課題を整理することで、第3次計画づくりの基礎資料を得ることを目的にアンケート調査を実施しました。

(2) 調査の対象及びサンプル数

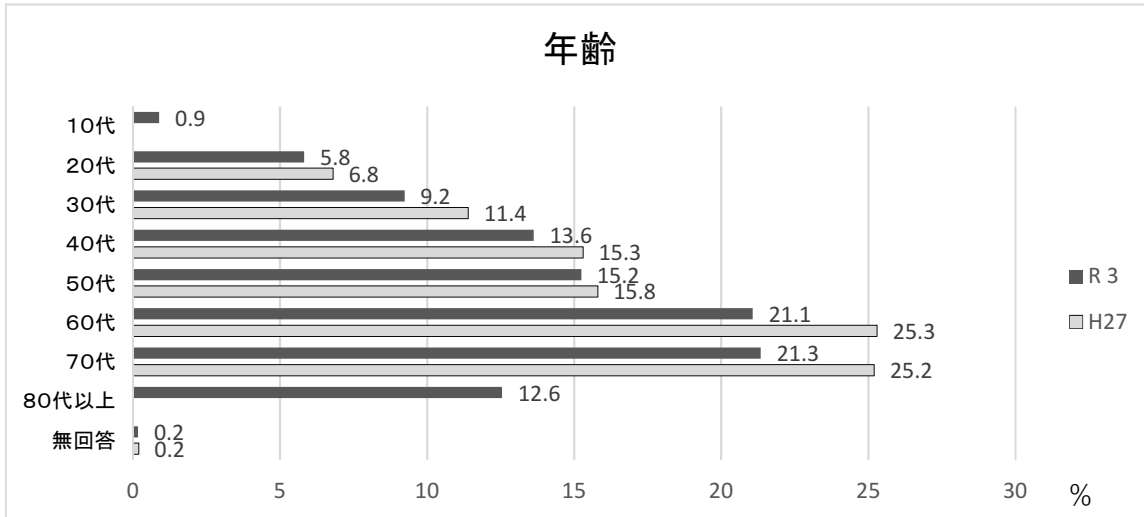
	18歳以上の市民調査	高校生調査
調査対象者	18歳以上の市民 (令和3年6月1日現在)	市内に所在の県立高等学校(5校)に通学している高校生(1年生及び2年生)
抽出方法	住民基本台帳からの無作為抽出	各学校2クラス
調査方法	郵送による配付・回収 ※お礼状兼督促状を1回送付	学校配付・回収
配付数	2,000人	392人
回収率	55.80%	100%
調査時期	令和3年7月27日～ 令和3年8月17日	令和3年7月7日～ 令和3年9月9日

(3) 分析・表示について

- ・比率は、小数点以下第2位を四捨五入しています。このため、比率が0.05未満の場合には0.0と表記しています。また、合計が100.0%にならないこともあります。
- ・複数回答の項目については、原則として、その項目に対しての有効回答者の数を基数とし、比率算出を行っています。このため、比率計が100%を超えることがあります。
- ・報告書中の文章やグラフにおいて、設問や選択肢の一部を省略して記載している場合があります。
- ・グラフの(n:○○)という表記は、その項目の有効回答者数で、比率算出の基礎となります。
- ・クロス集計(居住地区別・性別の集計)については、集計の都合上、無回答者を除いた集計となっている部分があり、単純集計の結果と合致するとは限りません。

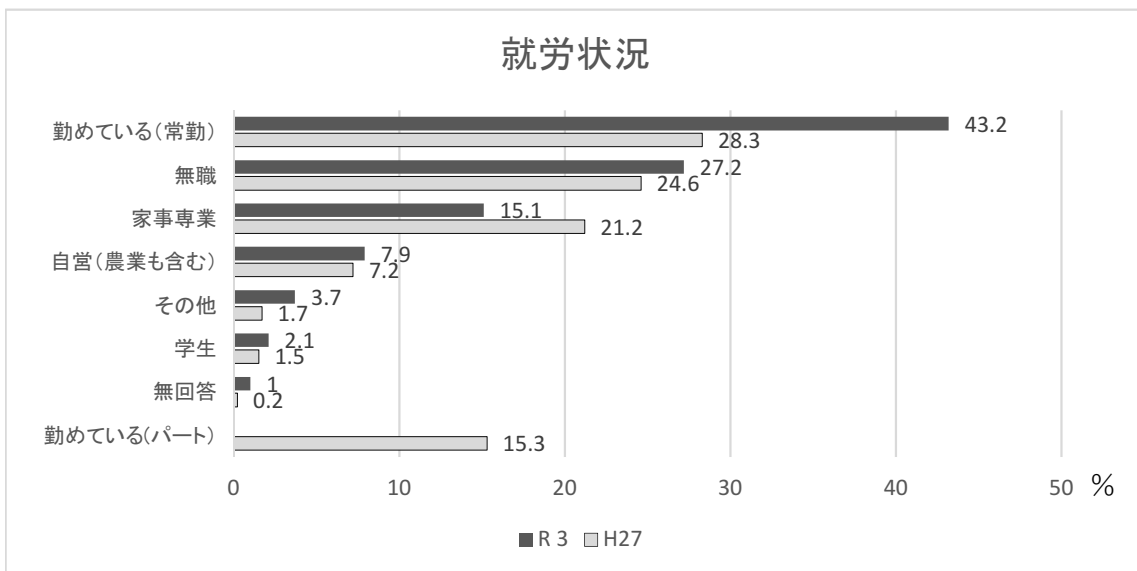
2 市民アンケート調査の結果

問1 年齢は。(〇は1つ)



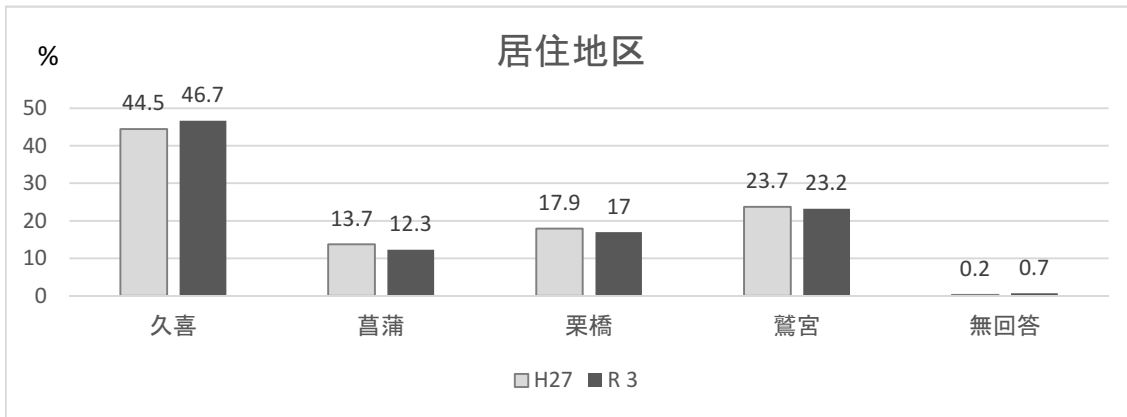
n=1,115(R3) n=1,097(H27)

問2 就労等の状況は。(〇は1つ)



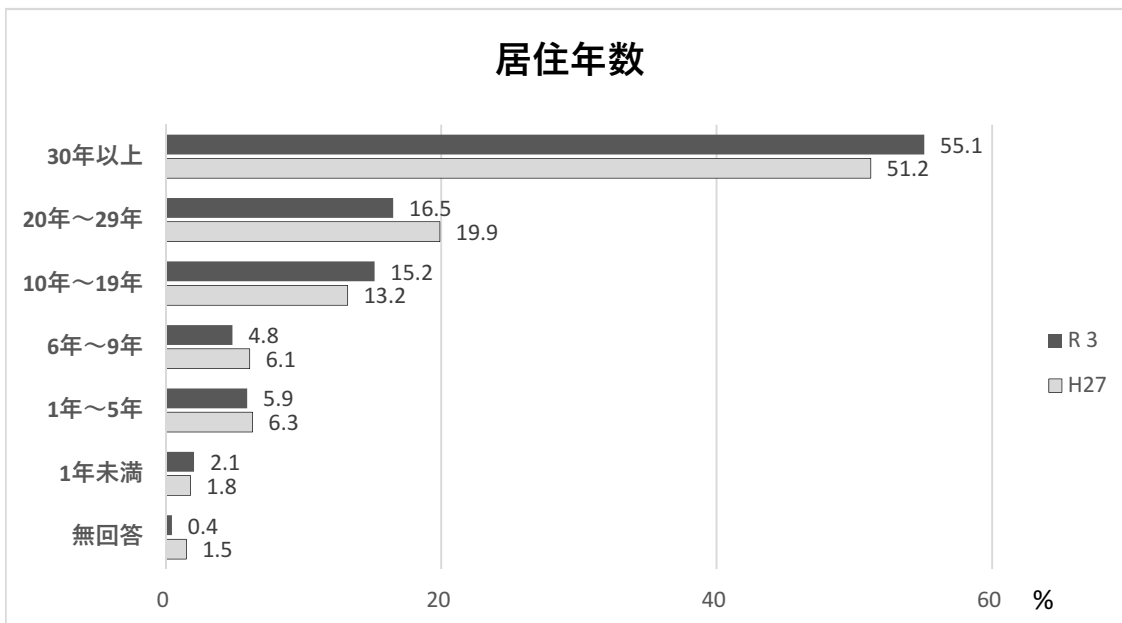
n=1,115(R3) n=1,097(H27)

問3 お住いの地区は。(〇は1つ)



n=1,097(H27) n=1,115(R3)

問4 久喜市にお住いになられて、何年になりますか。(〇は1つ)

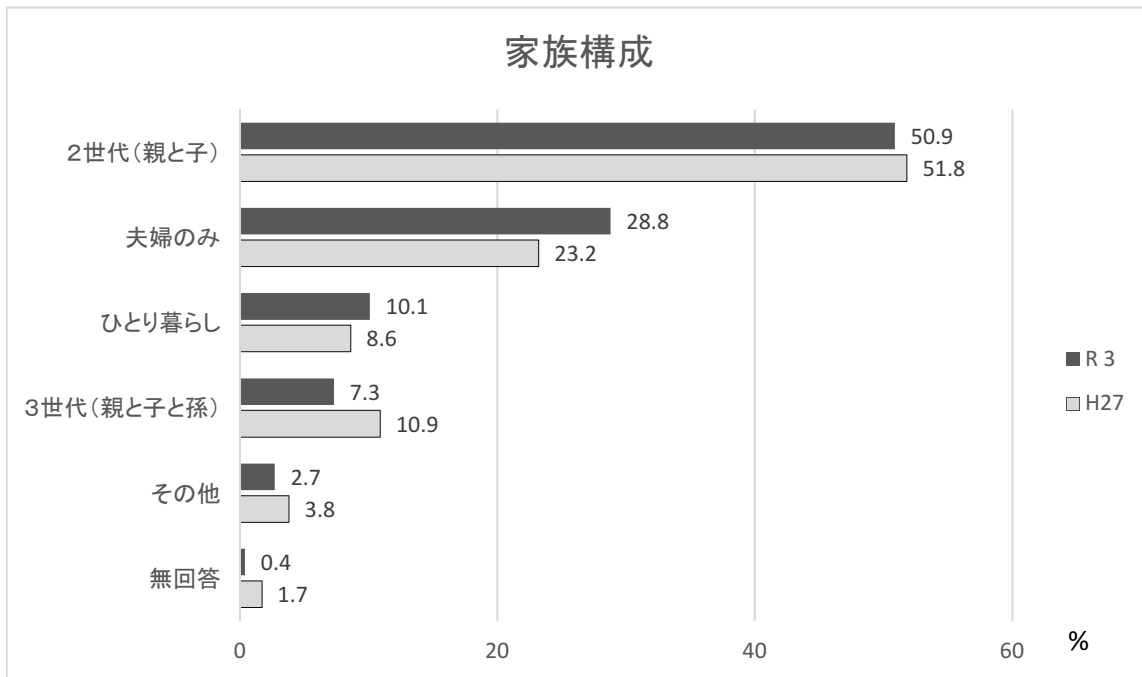


n=1,115(R3) n=1,097(H27)

問5 家族構成は。(〇は1つ)

家族構成は、「2世代(親と子)」50.9%が最も多い回答となっています。次いで、「夫婦のみ」28.8%、「ひとり暮らし」10.1%となっています。

前回の調査より、「ひとり暮らし」と回答した人は、1.5ポイント増えています。



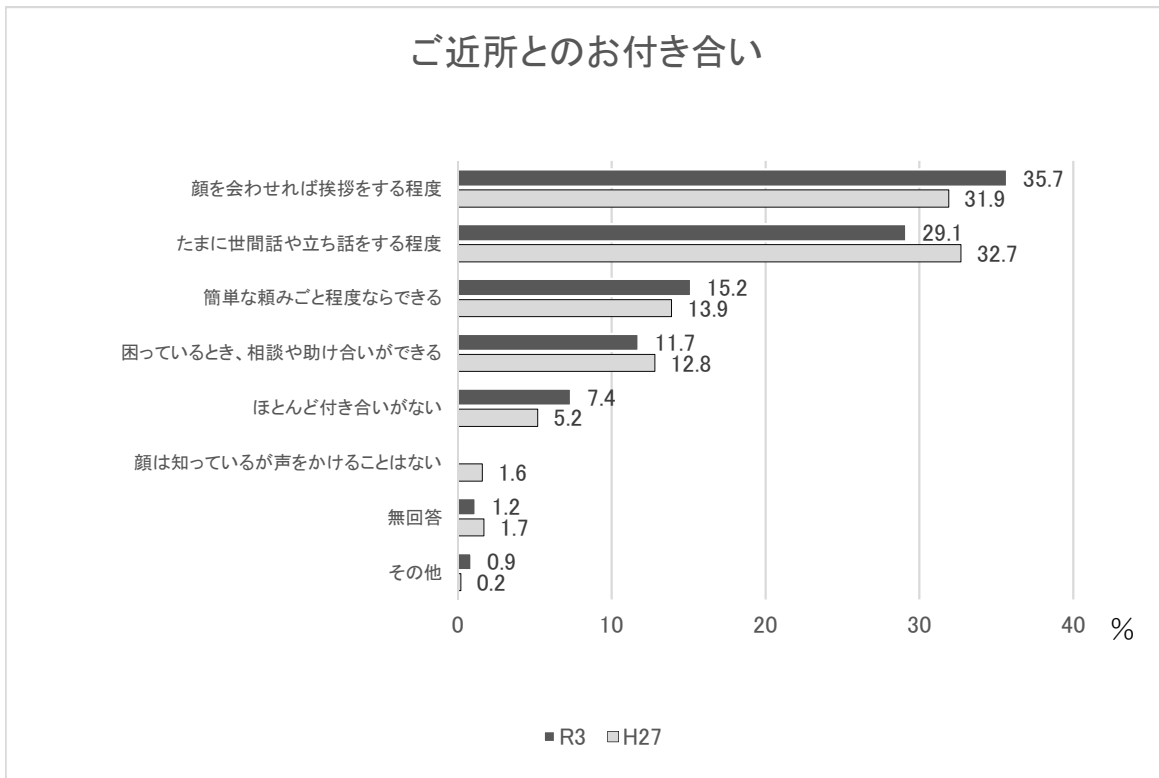
n=1,115(R3) n=1,097(H27)

問6 日頃ご近所との程度のお付き合いがありますか。(〇は1つ)

近所付き合いは、「顔を会わせれば挨拶を程度はする」35.7%が最も多い回答となっています。次いで、「たまに世間話や立ち話をする程度」29.1%、「簡単な頼みごと程度ならできる」15.2%となっています。

「簡単な頼みごと程度ならできる」、「困っているとき相談や助け合いができる」と回答した人は26.9%で、前回の調査では、26.7%でした。年代別にみると、「困っているとき相談や助け合いができる」と回答した人は、20歳代が1.5%と最も低く、70歳代が16.2%、80歳代以上が21.2%と高くなっています。

「ほとんど付き合いがない」と回答した人は、7.4%でした。年代別にみると、20歳代が21.5%と一番高く、次いで40歳代が14.5%、30歳代が10.5%でした。

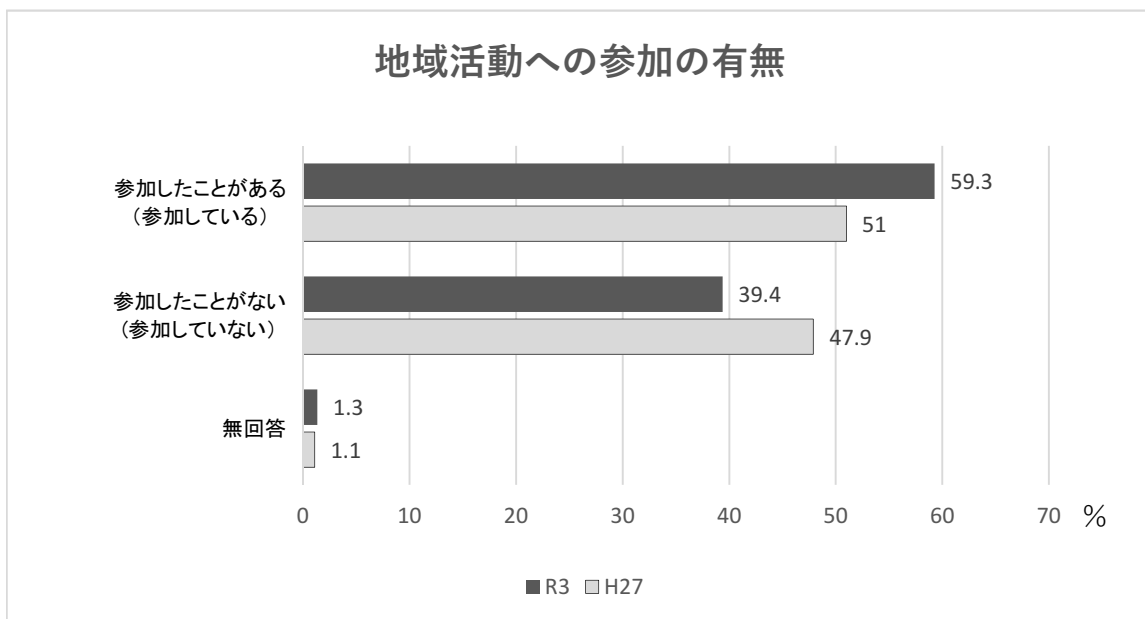


n=1,115(R3) n=1,097(H27)

問7 過去5年間に地域活動に参加したことがありますか。(○は1つ)

地域活動への参加状況は、「参加したことがある」59.3%が最も多い回答となっています。前回の調査より、8.3ポイント増えています。

年代別にみると、20歳代が15.4%と最も低く、70歳代が71%と最も高くなっています。50歳以上は6割以上が参加したことがあると回答しています。



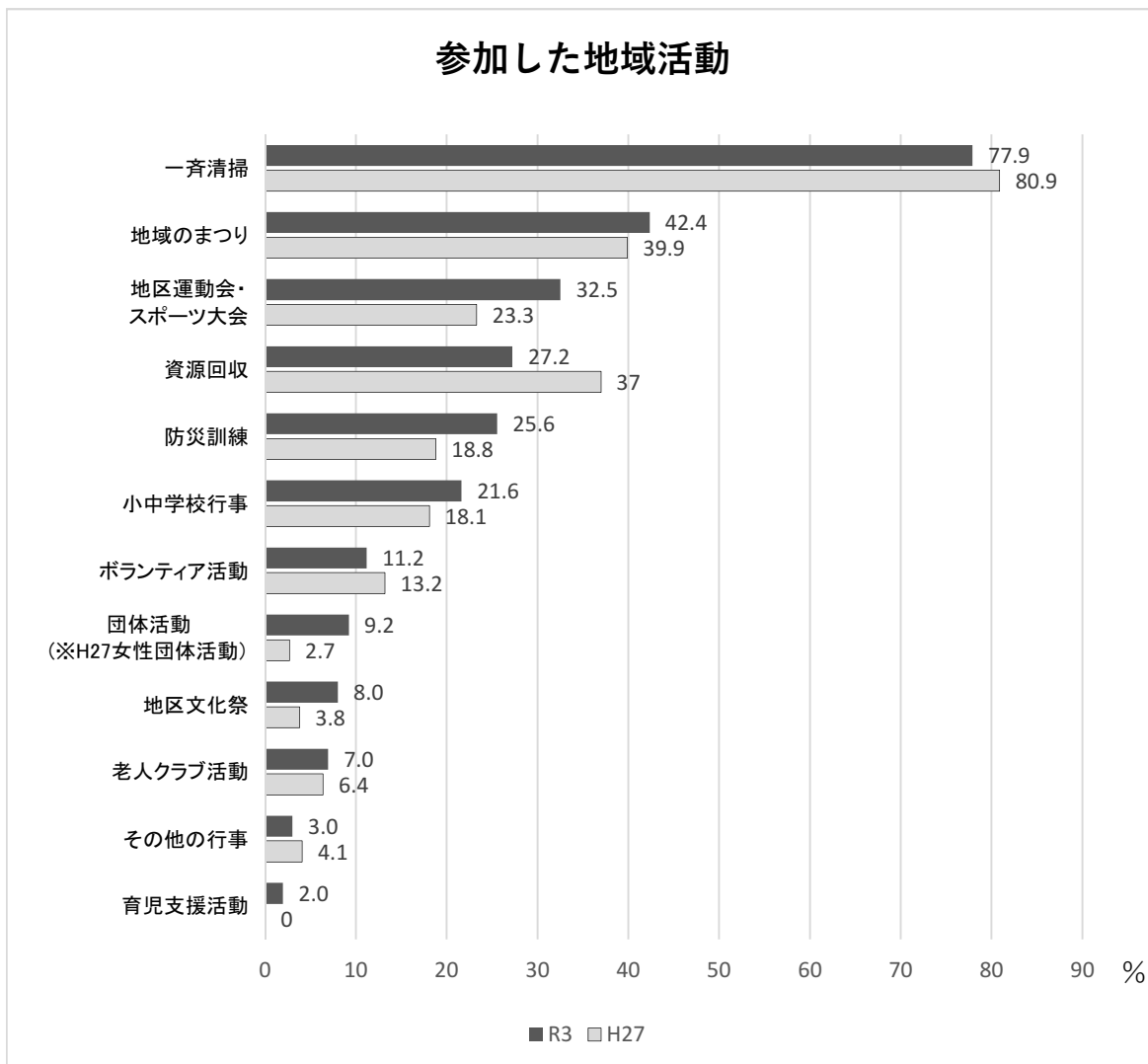
n=1,115(R3) n=1,097(H27)

問7-1 参加した地域活動(あてはまるものすべてに○)

参加した地域活動は、「一斉清掃」77.9%が最も多い回答となっています。次いで、「地域のまつり」42.4%、「地区運動会・スポーツ大会」32.5%となっています。

前回の調査では、「一斉清掃」、「地域のまつり」、「資源回収」と回答した人の割合が高くなっていました。

前回の調査より、「地域のまつり」、「地区運動会・スポーツ大会」、「防災訓練」、「小中学校行事」、「地区文化祭」、「老人クラブ活動」に参加した人の割合が増えています。

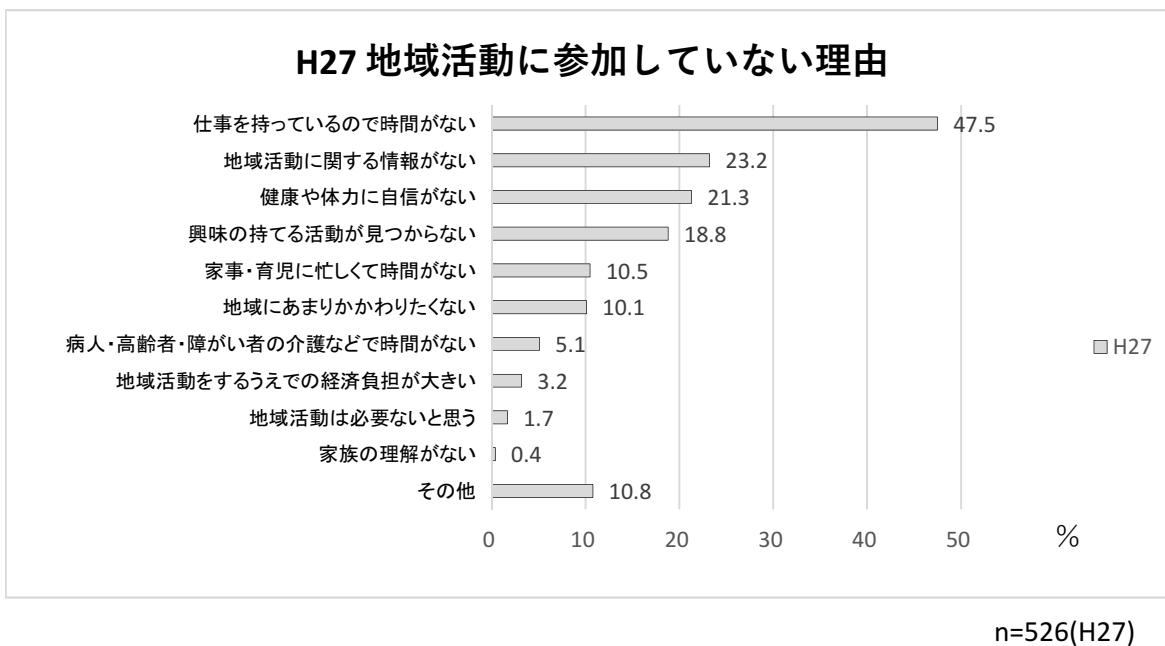
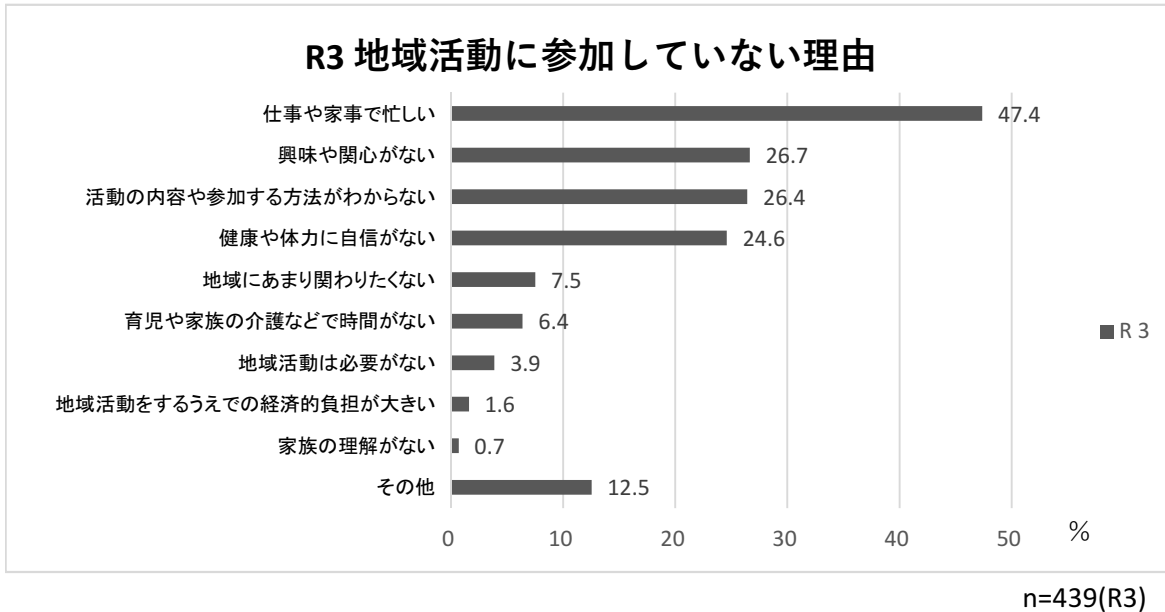


n=661(R3) n=559(H27)

問7-2 参加していない理由(〇は3つまで)

地域活動に参加していない理由は、「仕事や家事で忙しい」47.4%が最も多い回答となっています。次いで「興味や関心がない」26.7%、「活動内容や参加する方法がわからない」26.4%となっています。

前回の調査でも、「仕事を持っているので時間がない」、「活動に関する情報がない」と回答した人の割合が高くなっていました。



問8 日常生活で困っていることは誰に相談していますか。
(あてはまるものすべてに○)

日常生活での相談者は、「家族」79.8%が最も多い回答となっています。次いで「知人・友人」39.7%、「親戚」22.3%となっています。どの年代も、「家族」と回答した人の割合が高くなっています。

前回の調査でも、「家族・親戚」、「知人・友人」と回答している人の割合が高くなっています。

「相談していない」と10.2%の人が回答しています。年代別にみると、60歳代が6.7%と最も高く、次いで70歳代が6.2%でした。

前回の調査では、「相談できる人はいない」と回答した人は、5.2%でした。

誰に相談しているか	R3(%)
家族	79.8
知人・友人	39.7
親戚	22.3
近所の人	10.3
相談していない	10.2
かかりつけの医師	7.3
市役所	5.5
自治会長・区長	3.1
福祉サービス事業者	2.5
地域包括支援センター	2.4
社会福祉協議会	1.4
民生委員・児童委員	1.3
その他	1.0
無回答	0.7
ボランティア団体・NPO法人	0.3

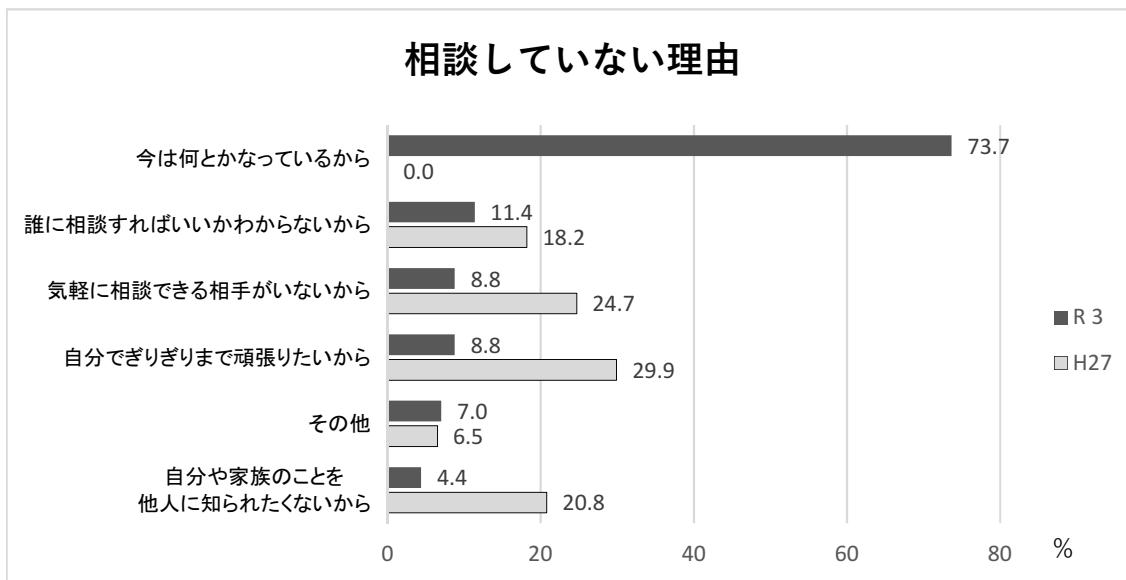
n=1,115

誰に相談しているか	H27(%)
家族・親戚	70.6
知人・友人	35.3
相談するような困りごとはない	17.4
近所の人	8.8
かかりつけの医師	7.0
相談できる人はいない	5.2
福祉サービス事業者	4.6
市役所(子育て支援センター・包括支援センター・保健センター等)地域包括支援センター	3.3
無回答	2.5
自治会長・区長	2.4
民生委員・児童委員	1.3
社会福祉協議会	1.2
その他	0.8
相談したくない	0

n=1,097

問8-1 相談していない(しない)理由は何ですか。(〇は1つ)

相談していない(しない)理由は、「今は何とかなっているから」73.7%が最も多い回答となっています。次いで「誰に相談すればいいかわからないから」11.4%、「気軽に相談できる相手がないから」8.8%、「自分でぎりぎりまで頑張りたいから」8.8%となっています。

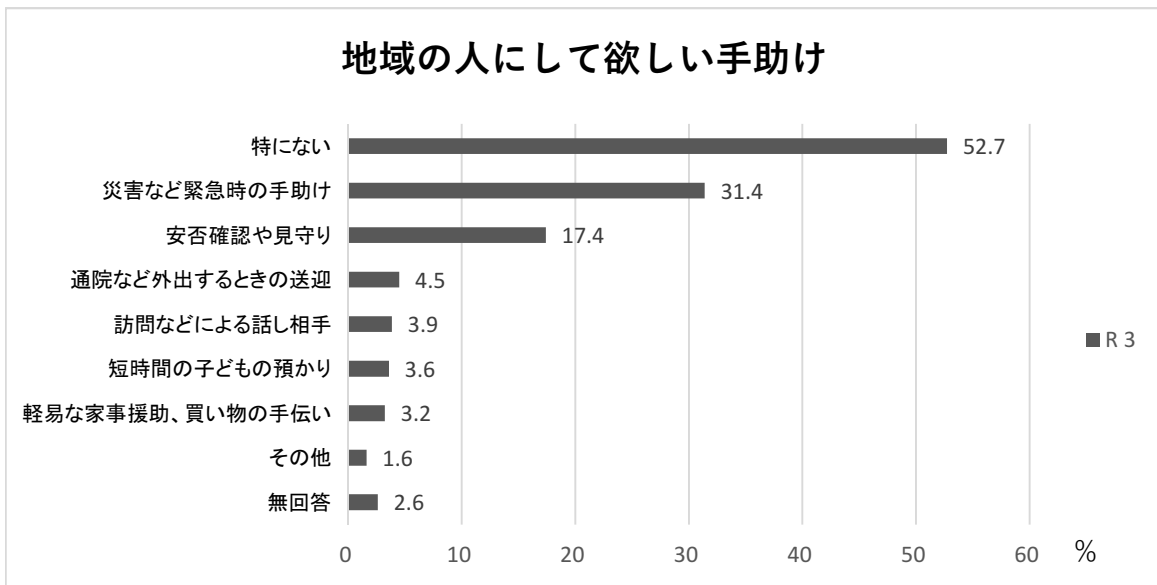


n=114(R3) n=77(H27)

問9 地域の人にしてほしい手助けはありますか。(あてはまるものすべてに○)

地域の人にしてほしい手助けは、「特にない」52.7%が最も多い回答となっています。次いで「災害など緊急時の手助け」31.4%、「安否確認や見守り」17.4%となっています。

どの世代も、「災害など緊急時の手助け」と回答している人の割合が高くなっています。

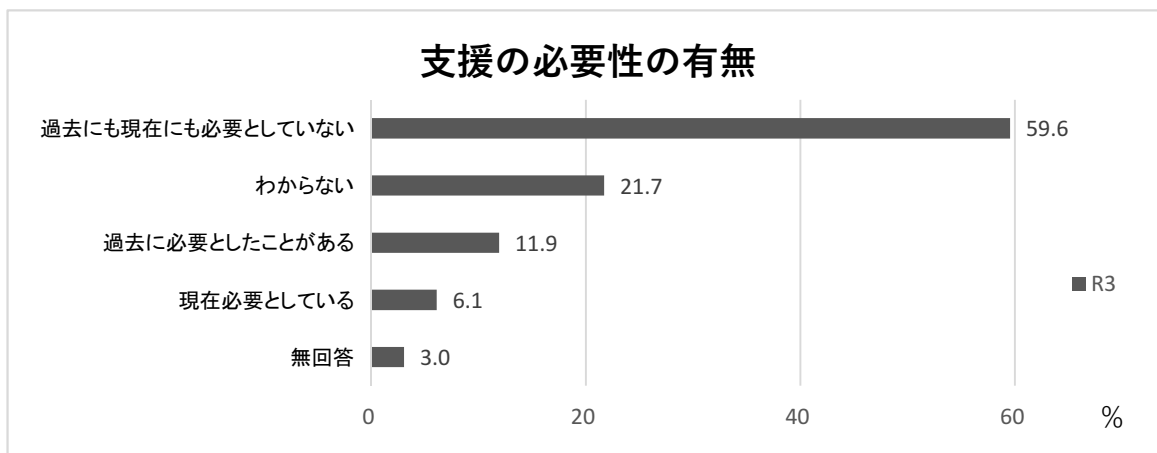


n=1,115(R3)

問10 地域での支援を過去に必要としたことがありますか。
または、現在必要としていますか。(あてはまるものすべてに○)

地域での支援について、「過去も現在も必要としていない」59.6%が最も多い回答となっています。

「過去に必要としたことがある」は11.9%、「現在必要としている」は6.1%でした。



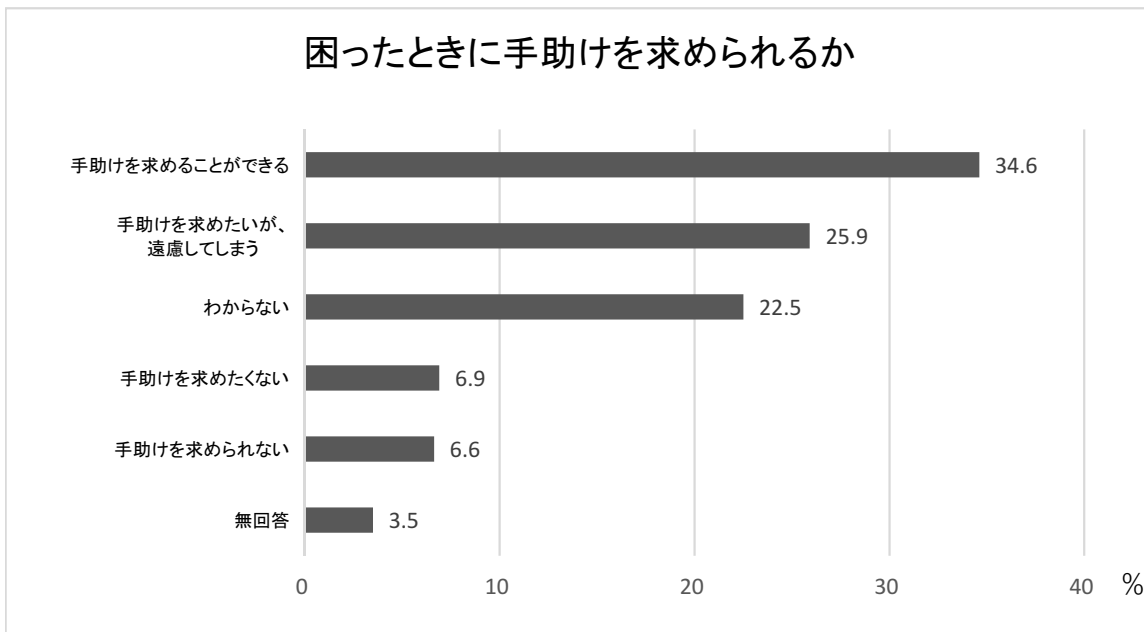
n=1,115(R3)

問11 困ったときに地域の人に手助けを求められますか。(○は1つ)

困ったときに手助けを求められるかでは、「手助けを求めることができる」34.6%が最も多い回答となっています。次いで「手助けを求めたいが遠慮してしまう」25.9%、「わからない」22.5%でした。

「手助けを求めることができる」と回答した人を年代別にみると、70歳代が42.9%と最も高く、次いで80歳代以上が42.1%、60歳代が40.7%となっています。

「手助けを求めたいが遠慮してしまう」と回答した人を年代別にみると、20歳代が41.5%と最も高く、次いで10歳代が40%、40歳代が34.9%、30歳代が33.3%となっています。



n=1,115(R3)

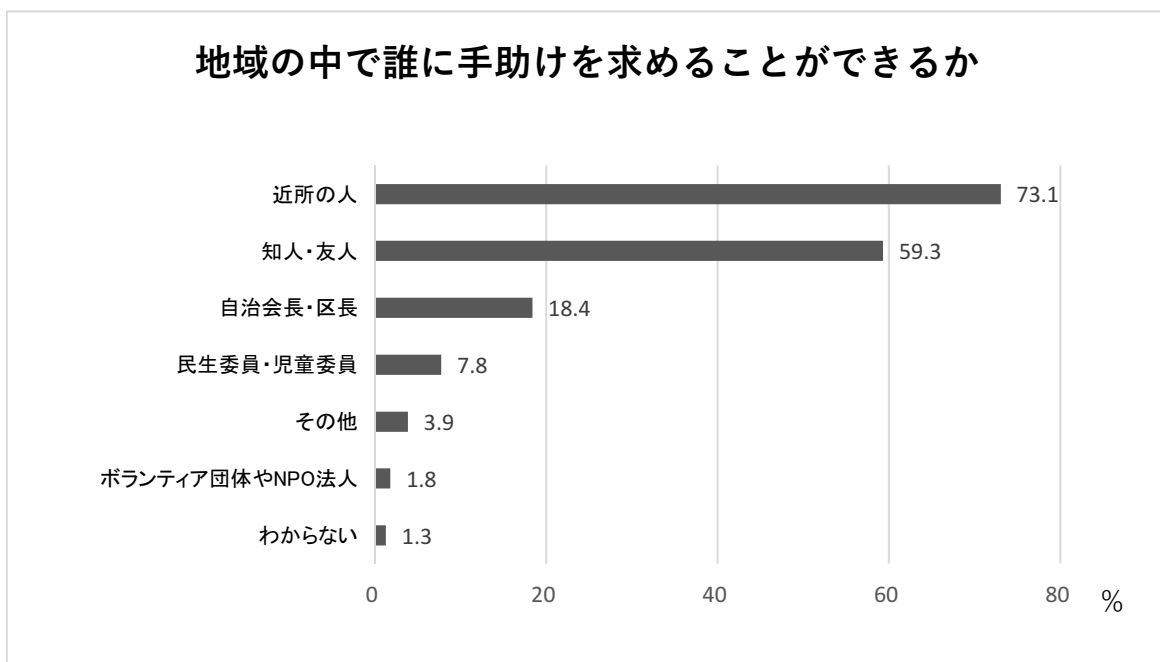
問11-1 地域の人の中で手助けを求めることができる人はいますか。
(あてはまるものすべてに○)

誰に手助けを求めることができるかでは、「近所の人」73.1%が最も多い回答となっています。次いで「知人・友人」59.3%、「自治会長・区長」18.4%となっています。

年代別にみると、40歳代以外の年代で、「近所の人」と回答した人の割合が最も高くなっています。

「自治会長・区長」と回答した人を年代別にみると、60歳代以上の割合が高くなっています。

「民生委員・児童委員」と回答した人は7.8%で、年代別にみると70歳代と30歳代の割合が高くなっています。



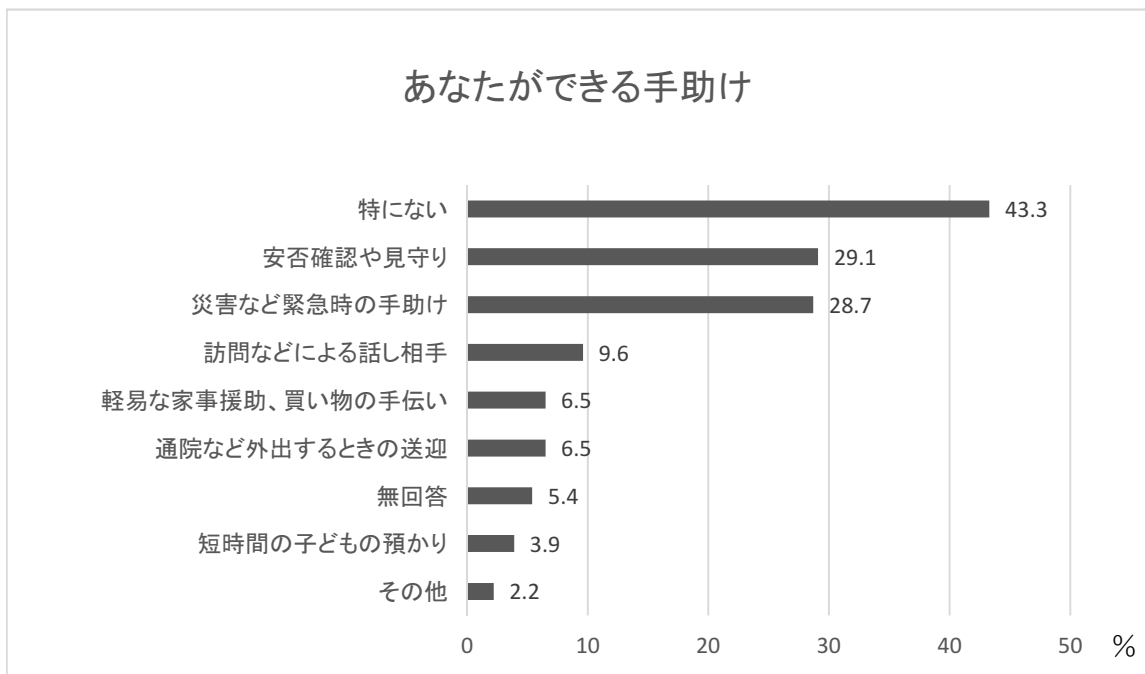
n=386(R3)

問12 お住いの地域でできる手助けはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

あなたができる手助けでは、「特にない」43.3%が最も多い回答となっています。次いで「安否確認や見守り」29.1%、「災害など緊急時の手助け」28.7%となっています。

「安否確認や見守り」と回答した人を年代別にみると、割合が高い順に10歳代が38.5%、60歳代が26.7%、50歳代が23.2%となっています。

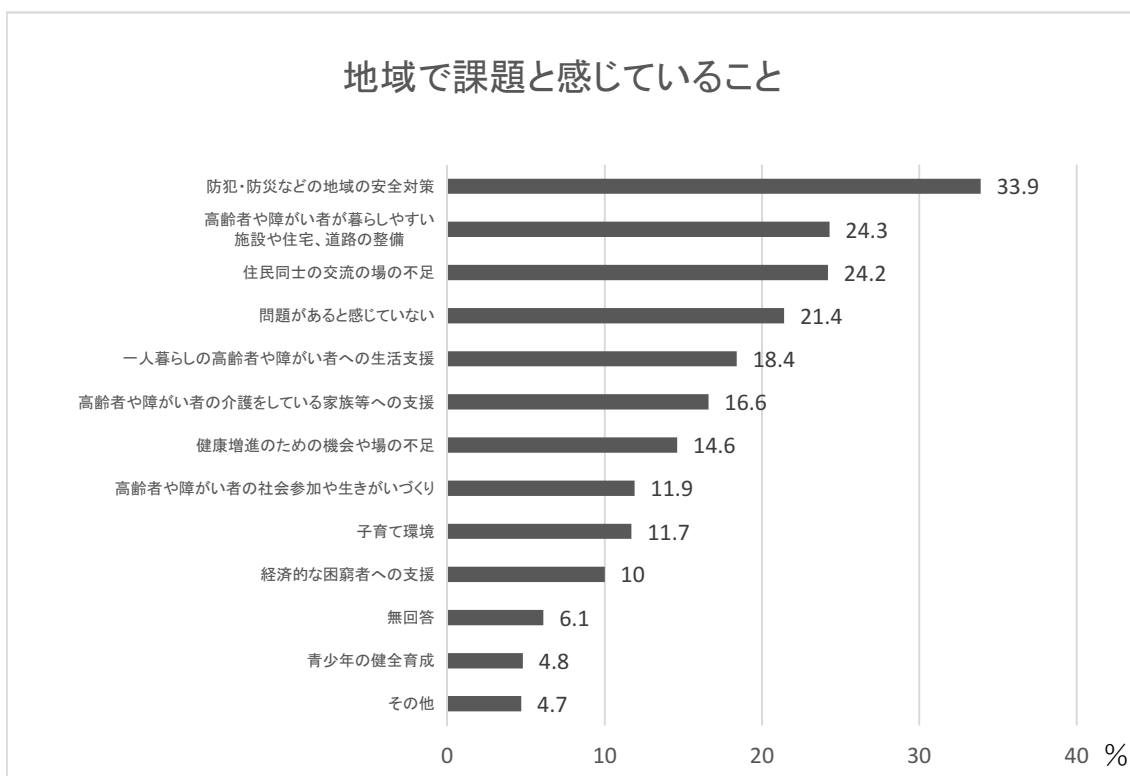
「災害など緊急時の手助け」と回答した人を年代別にみると、割合が高い順に20歳代が27.2%、40歳代が26%、50歳代が23.2%となっています。



n=1,115(R3)

問13 お住いの地域で課題と感じていることはありますか。
 (あてはまるものすべてに○)

地域で課題と感じていることでは、「防犯・防災などの地域の安全対策」33.9%が最も多い回答となっています。次いで「高齢者や障がい者が暮らしやすい施設や住宅、道路の整備」24.3%、「住民同士の交流の場の不足」24.2%となっています。

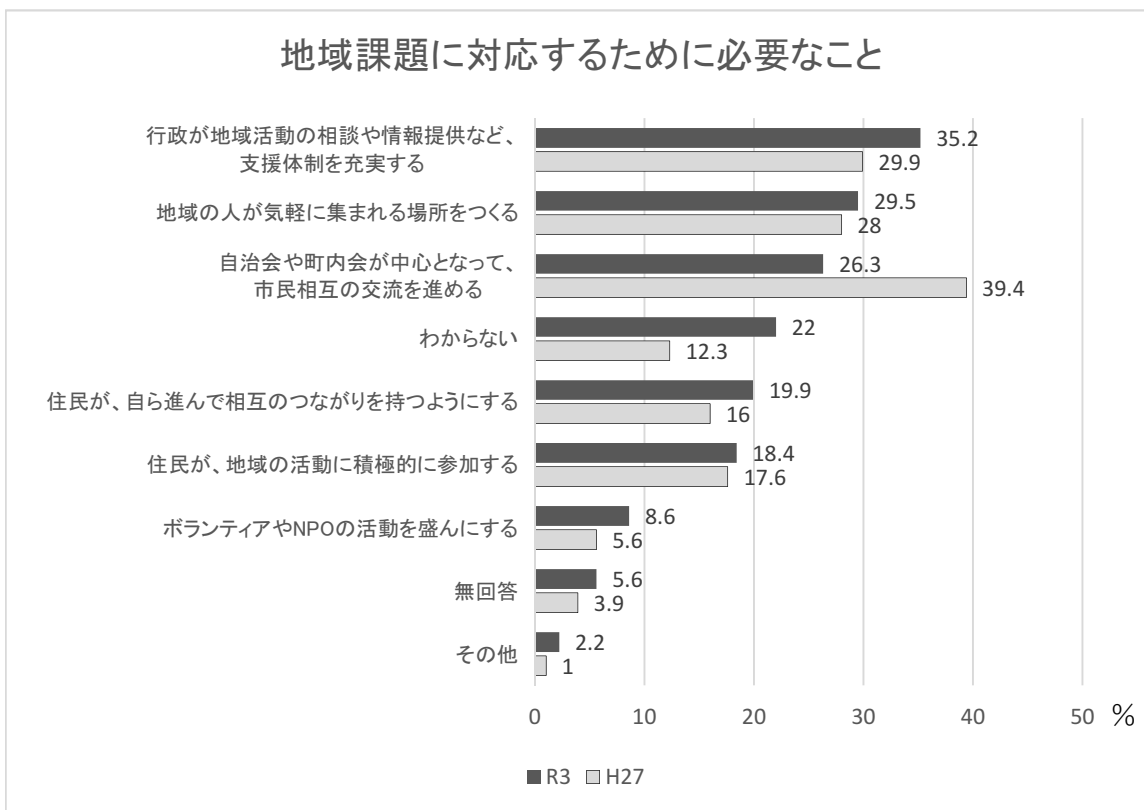


n=1,115(R3)

問14 お住いの地域で課題だと感じていることに対し、住民が相互に協力するためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(〇は3つまで)

地域課題に対応するために必要なことでは、「行政が地域活動の相談や情報提供など、支援体制を充実する」35.2%が最も多い回答となっています。次いで「地域の人々が気軽に集まれる場所をつくる」29.5%、「自治会や町内会が中心となって、市民相互の交流を進める」26.3%となっています。

前回の調査でも、「行政が地域活動の相談や情報提供など、支援体制を充実する」、「地域の人々が気軽に集まれる場所をつくる」、「自治会や町内会が中心となって、市民相互の交流を進める」と回答した人の割合が高くなっていました。

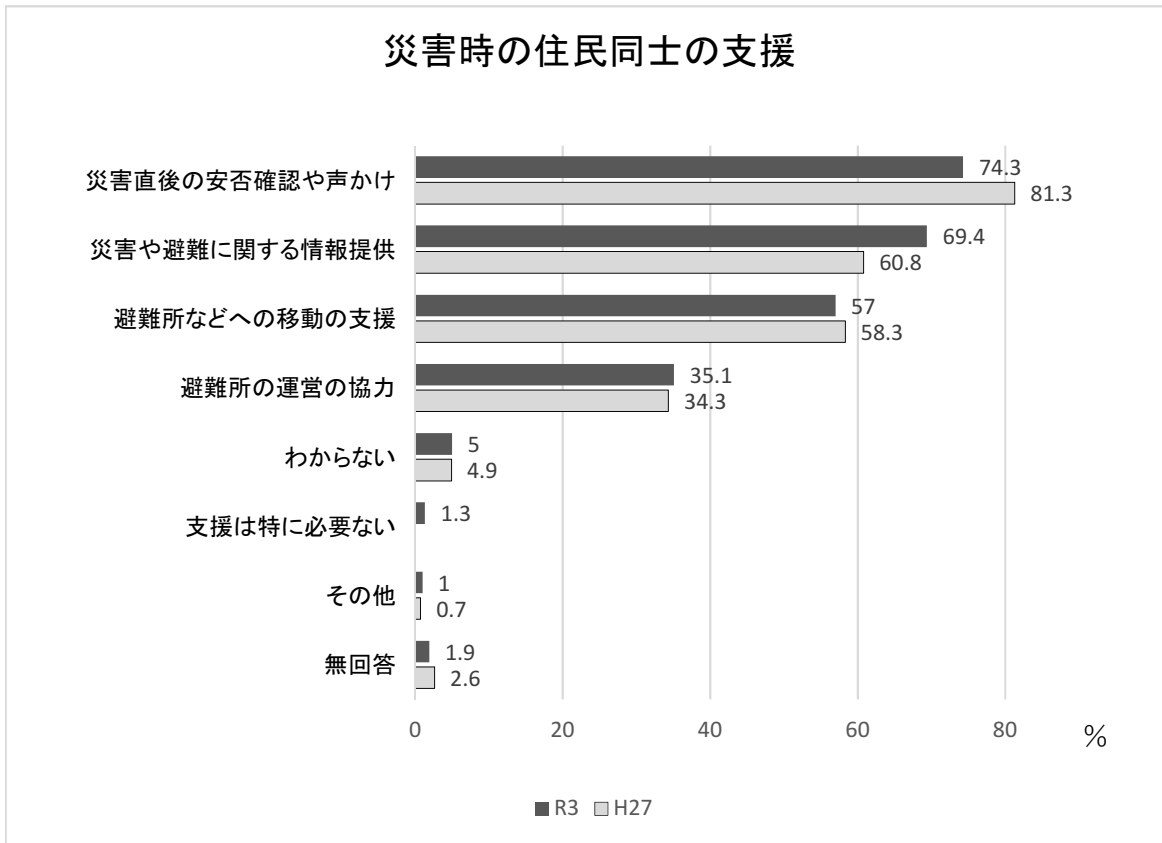


n=1,115(R3) n=1,097(H27)

問15 災害が起こった場合に、住民がお互いにどのような支援をすることが必要だと考えますか。(あてはまるものすべてに○)

災害時の住民同士の支援では、「災害直後の安否確認や声かけ」74.3%が最も多い回答となっています。次いで「災害や避難に関する情報提供」69.4%、「避難所などへの移動の支援」57%となっています。

前回の調査でも、「災害直後の安否確認や声かけ」、「災害や避難に関する情報提供」、「避難所などへの移動の支援」と回答した人の割合が高くなっていました。

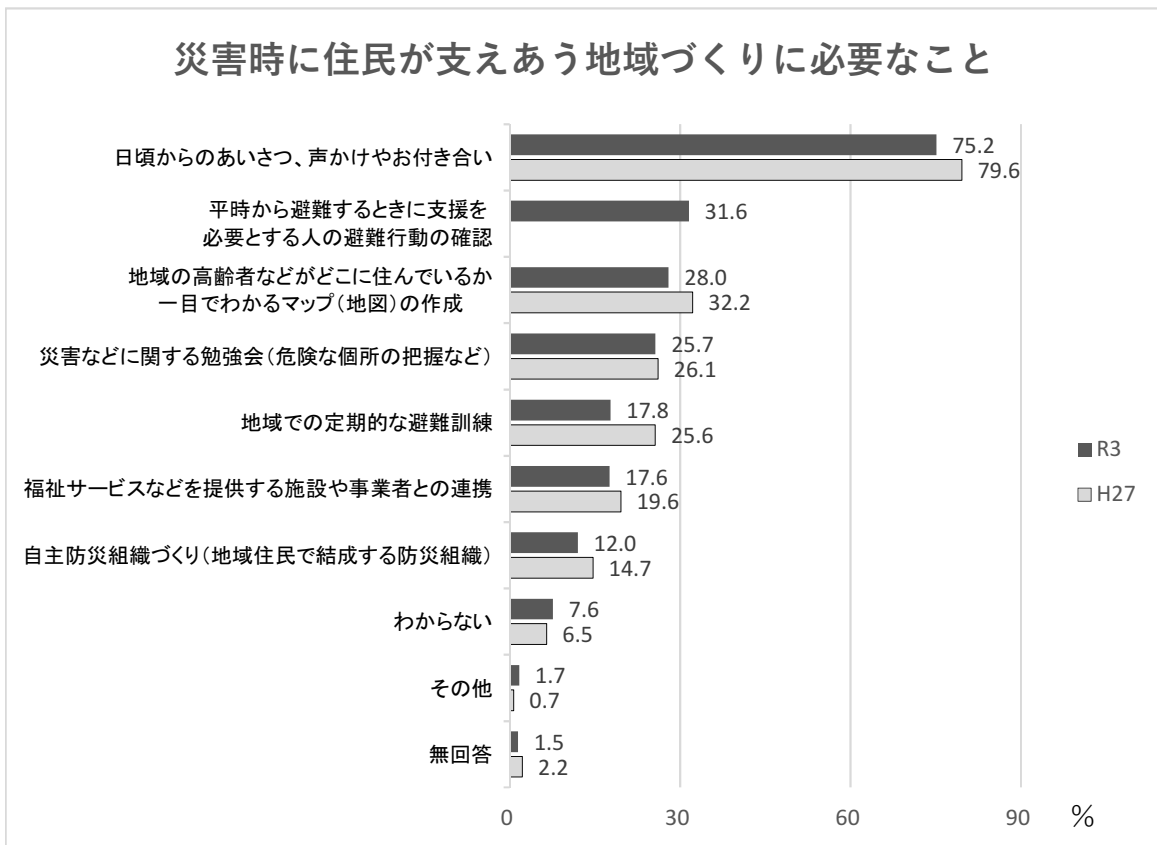


n=1,115(R3) n=1,097(H27)

問16 災害時に住民が支えあう地域づくりには、何が重要だと思いますか。
 (〇は3まで)

災害時に住民が支えあう地域づくりに必要なことでは、「日頃からのあいさつ、声かけやお付き合い」75.2%が最も多い回答となっています。次いで「平時から避難するとき支援を必要とする人の避難行動の確認」31.6%、「地域の高齢者などがどこに住んでいるか一目でわかるマップ(地図)の作成」28%となっています。

前回の調査でも、「日頃からのあいさつ、声かけやお付き合い」、「地域の高齢者などがどこに住んでいるか一目でわかるマップ(地図)の作成」と回答した人の割合が高くなっていました。

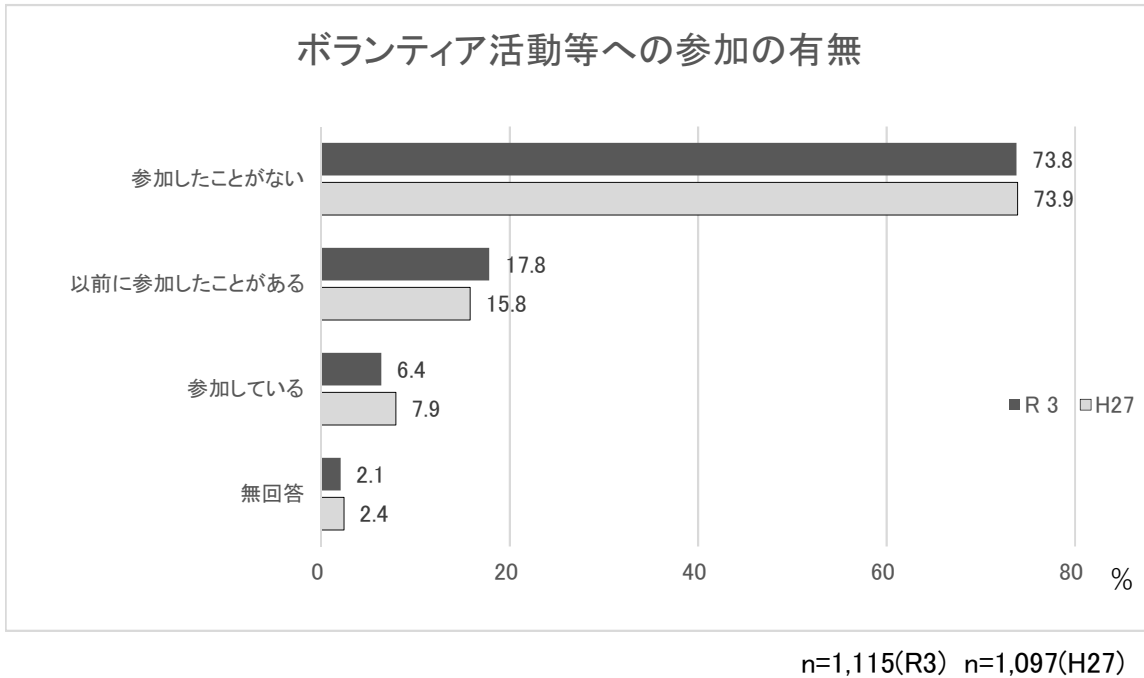


n=1,115(R3) n=1,097(H27)

問17 ボランティアやNPO(営利を目的としないで社会貢献活動や慈善行動を行う市民活動)の活動に参加したことがありますか。(〇は1つだけ)

ボランティアやNPOの活動への参加状況では、「参加したことがない」73.8%が最も多い回答となっています。次いで「以前参加参加したことがある」17.8%、「参加している」6.4%となっています。

「以前参加参加したことがある」、「参加している」と回答した人は、24.2%でした。前回の調査より、0.5ポイント増えています。年代別にみると、割合が高い順位に10歳代が50%、20歳代が29.9%、30歳代が27.1%でした。

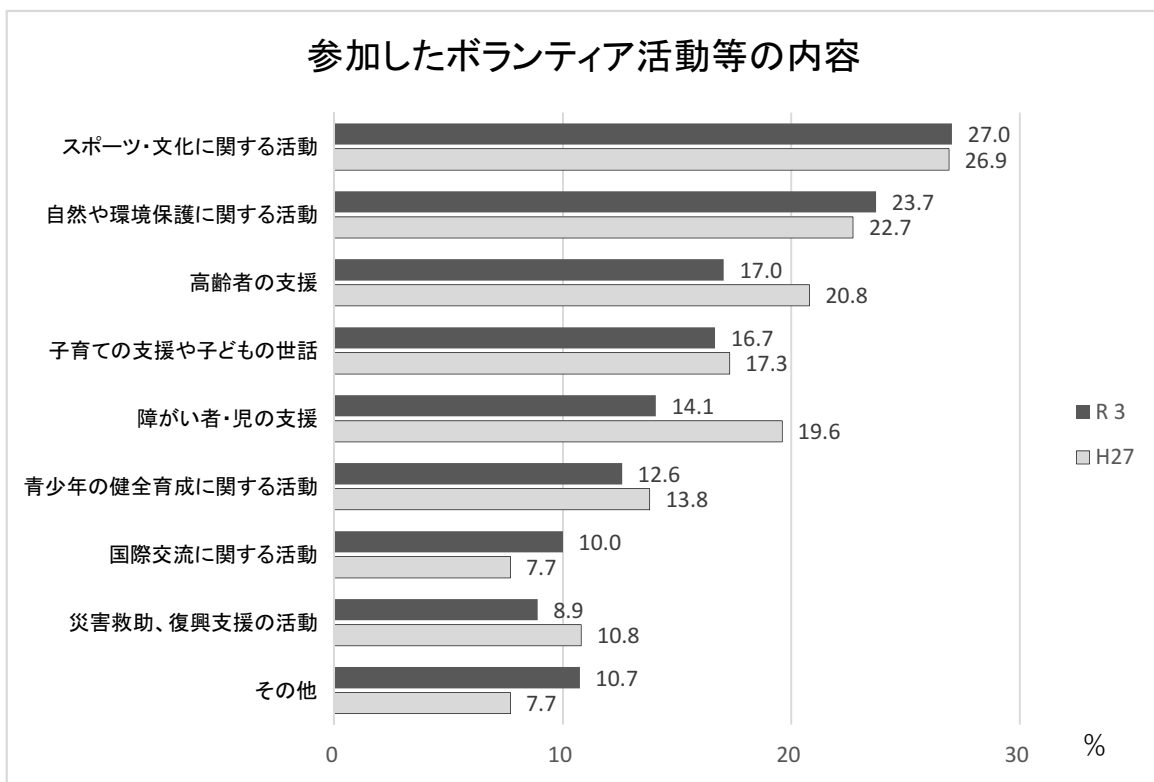


問17-1 どのような活動に参加してきましたか。
(あてはまるものすべてに○)

参加したボランティア活動等の内容は、「スポーツ・文化に関する活動」27%が最も多い回答となっています。次いで「自然や環境保護活動に関する活動」23.7%、「高齢者の支援」17%となっています。

前回の調査でも、「スポーツ・文化に関する活動」、「自然や環境保護活動に関する活動」、「高齢者の支援」と回答した人の割合が高くなっていました。

年代別に参加した割合が最も高い活動は、10歳代が「自然や環境保護活動に関する活動」と「スポーツ・文化に関する活動」、20歳代が「障がい者・児の支援」、「自然や環境保護活動に関する活動」、「スポーツ・文化に関する活動」、30歳代と40歳代が「自然や環境保護活動に関する活動」、50歳代以上が「スポーツ・文化に関する活動」でした。

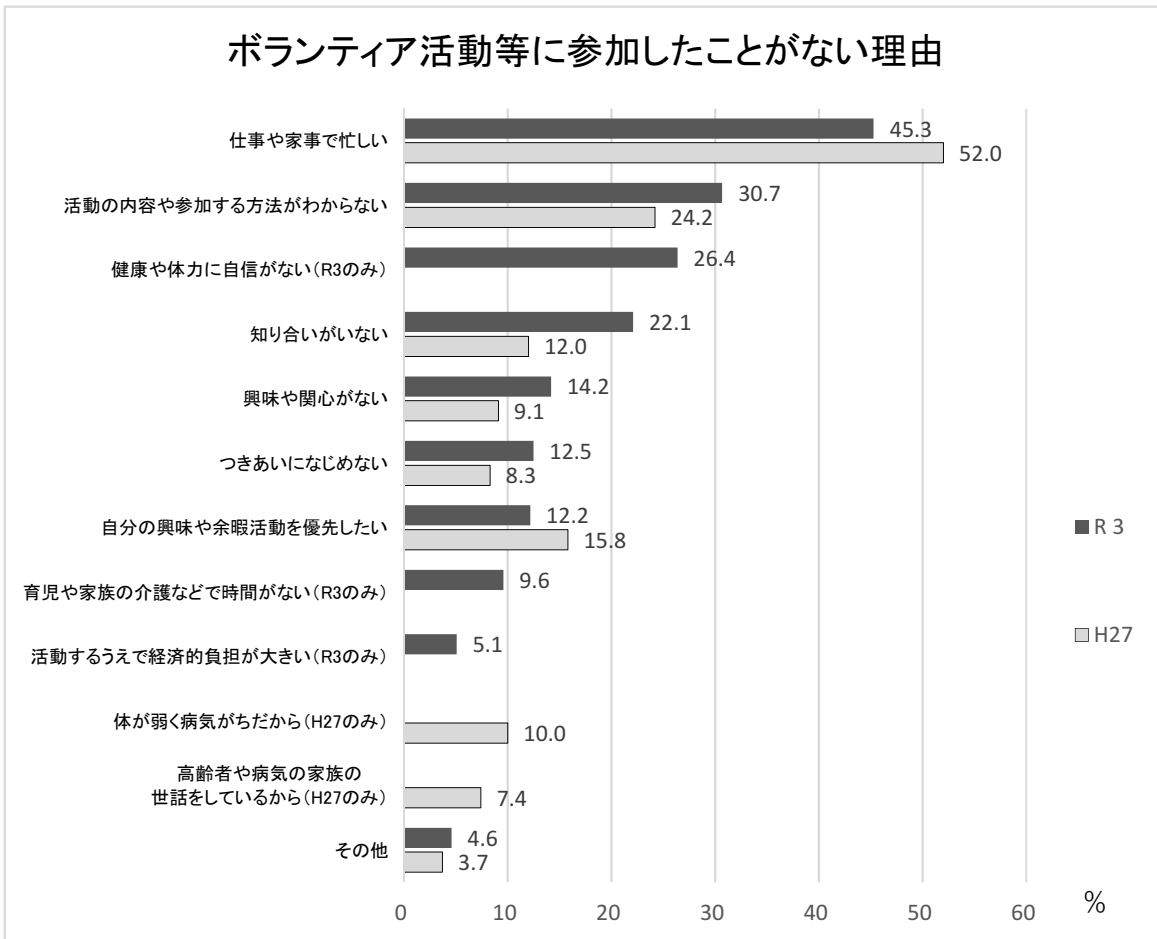


n=270(R3) n=260(H27)

問17-2 参加したことがない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

ボランティア活動等に参加したことが無い理由は、「仕事や家事で忙しい」45.3%が最も多い回答となっています。次いで「活動内容や参加する方法がわからない」30.7%、「健康や体力に自信がない」26.4%となっています。

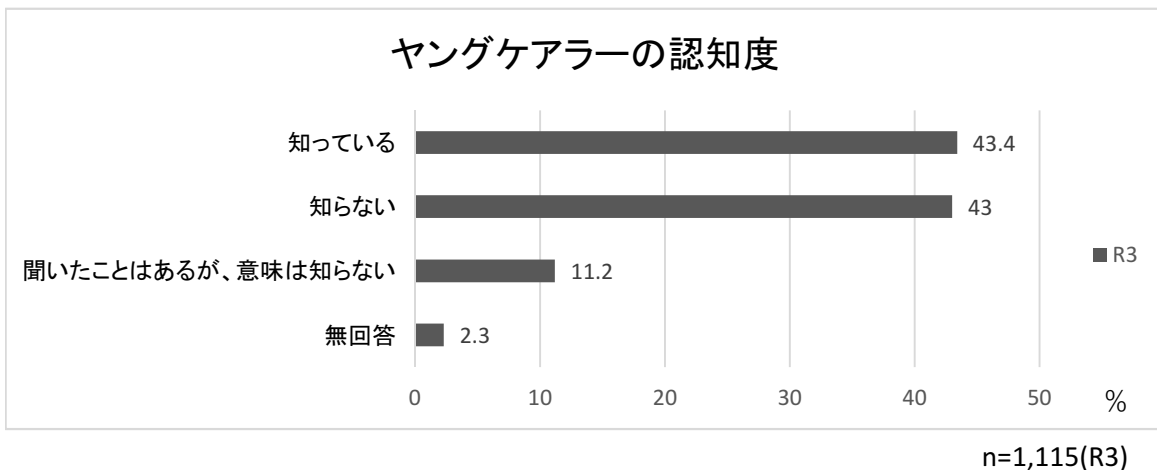
年代別に参加しない理由をみると、10歳代が「仕事や家事で忙しい」、「活動の内容や参加する方法がわからない」、「知り合いがいない」、20歳代から60歳代が「仕事や家事で忙しい」、70歳代以上が「健康や体力に自信がない」と回答した人の割合が高くなっています。



n=823(R3) n=811(H27)

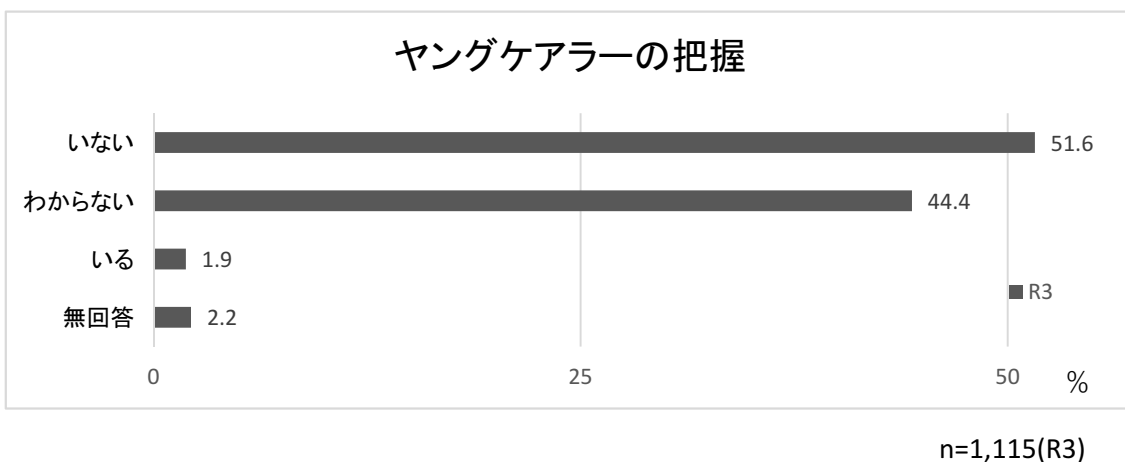
問18 「ヤングケアラー」という言葉や意味を知っていますか。(○は1つ)

ヤングケアラーの認知度は、「知っている」43.4%が最も多い回答となっています。次いで「知らない」43%、「聞いたことはあるが、意味は知らない」11.2%となっています。「知らない」、「聞いたことはあるが、意味は知らない」と回答した人は、54.2%でした。



問19 あなたの周囲で、「ヤングケアラー」であると思われる人がいますか。(○は1つ)

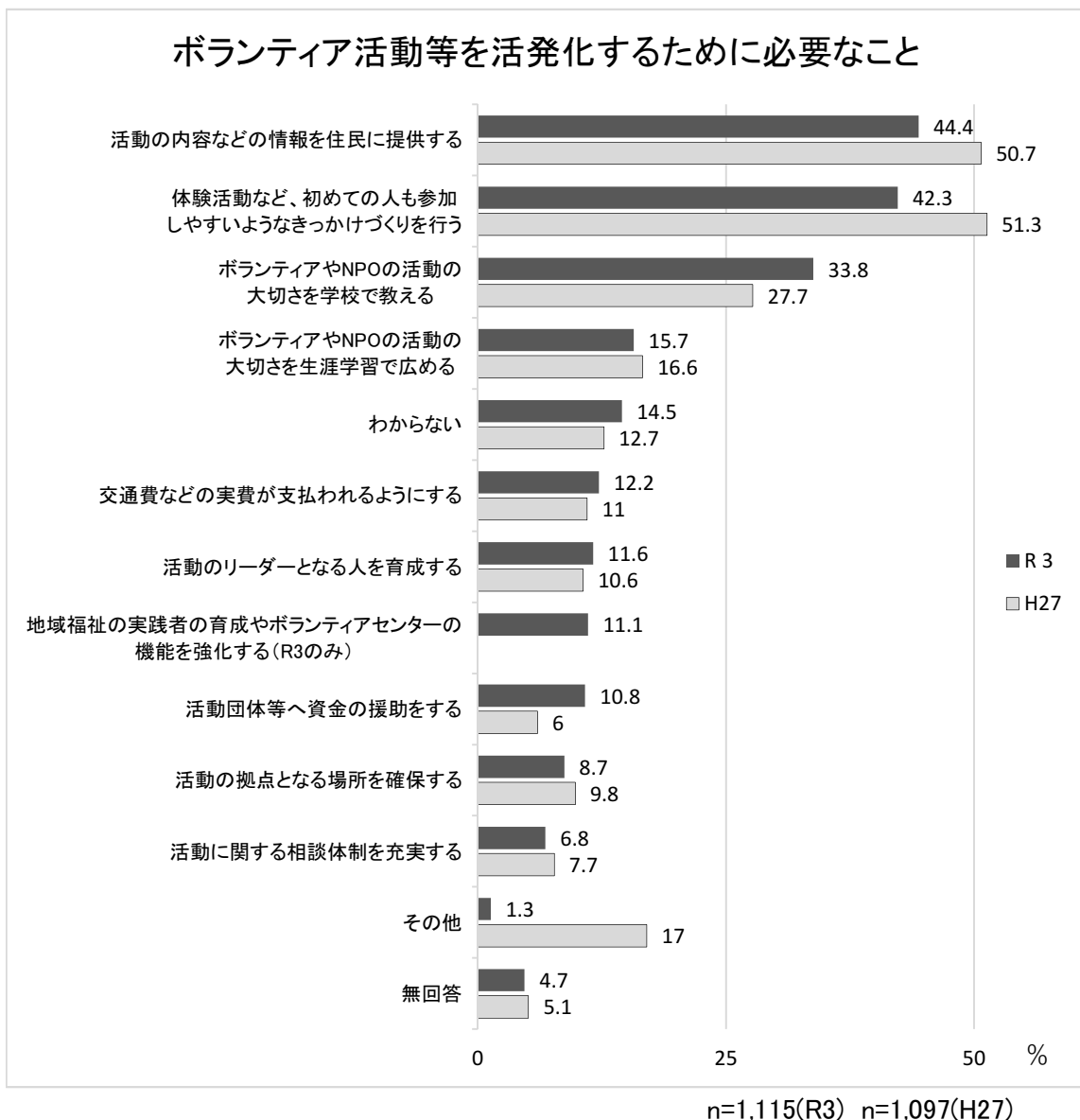
ヤングケアラーの把握は、「いない」51.6%が最も多い回答となっています。次いで「わからない」44.4%、「いる」1.9%となっています。



問20 ボランティアやNPO(営利を目的としないで社会貢献活動や慈善活動を行う市民活動団体)の活動を活発にするためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

ボランティア活動等を活性化するために必要なことでは、「活動の内容などの情報を住民に提供する」44.4%が最も多い回答となっています。次いで「体験活動など、初めての人も参加しやすいようなきっかけづくりを行う」42.3%、「ボランティアやNPOの活動の大切さを学校で教える」33.8%となっています。

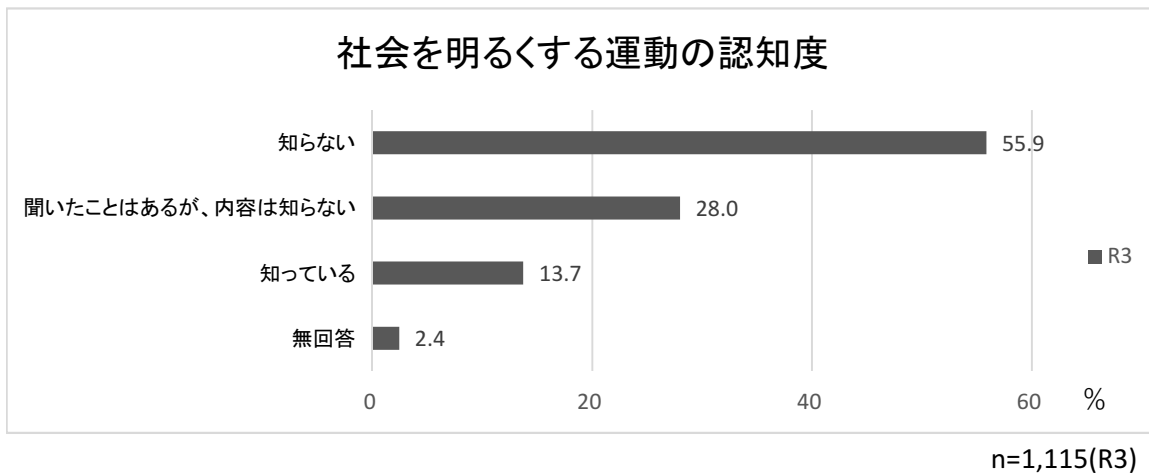
前回の調査でも、「活動の内容などの情報を住民に提供する」、「体験活動など初めての人も参加しやすいようなきっかけづくりを行う」、「ボランティアやNPOの活動の大切さを学校で教える」と回答した人の割合が高くなっていました。



問21 「社会を明るくする運動」という言葉や内容を知っていますか。(○は1つ)

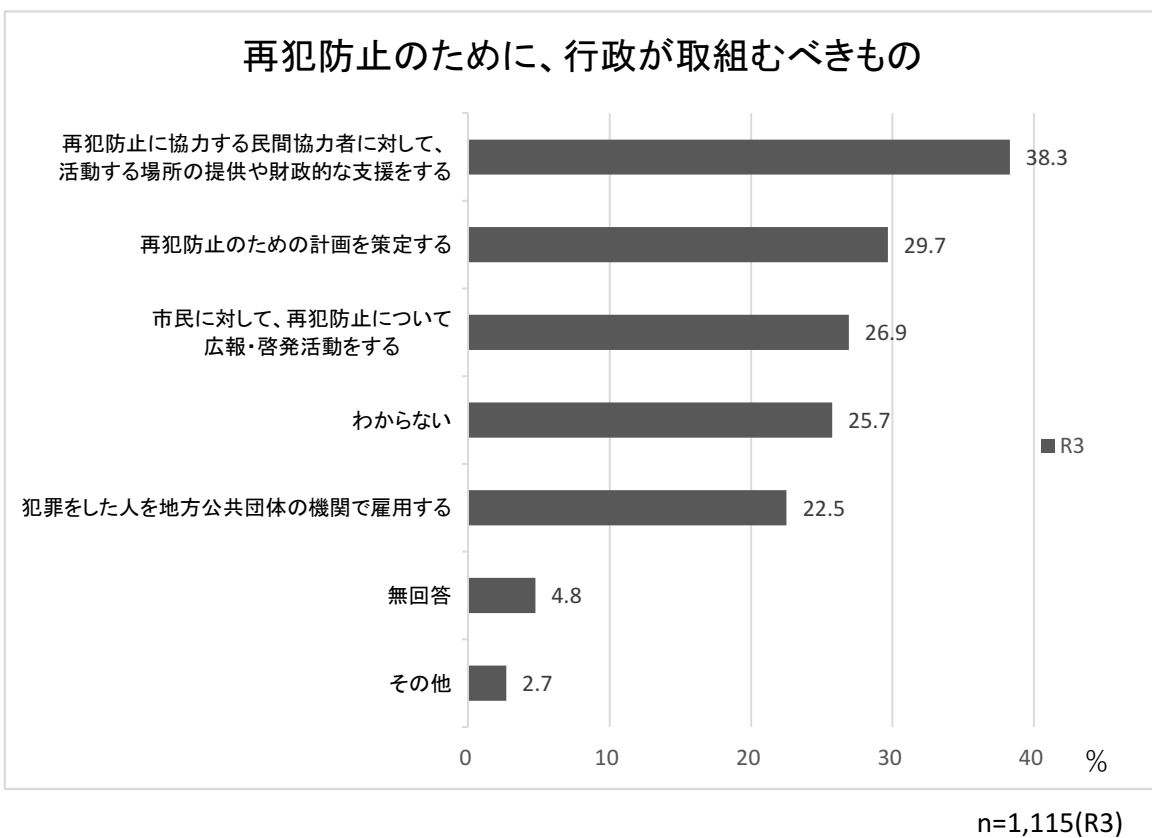
社会を明るくする運動の認知度は、「知らない」55.9%が最も多い回答となっています。次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」28%、「知っている」13.7%となっています。

「知らない」、「聞いたことはあるが、内容は知らない」と回答した人は、83.9%でした。



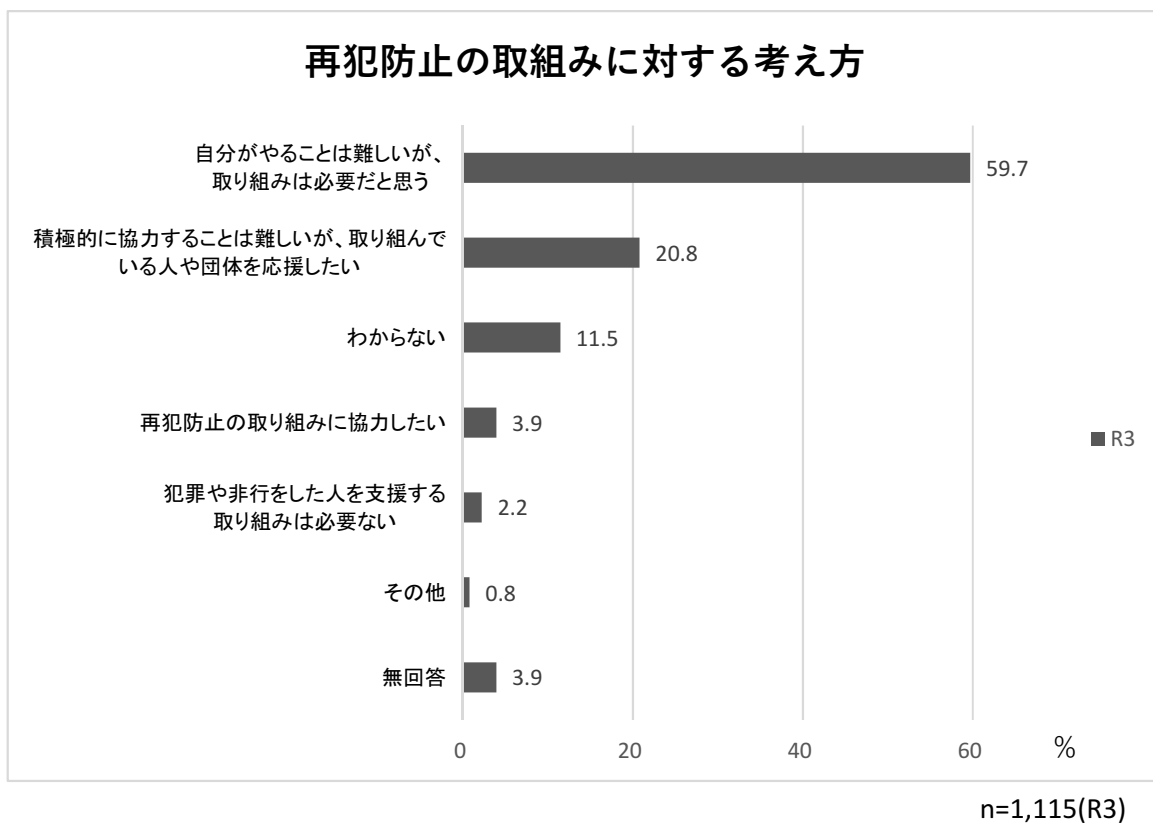
問22 再犯防止のために、行政が取り組むべきものはどれだと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

再犯防止のために、行政が取り組むべきものでは、「再犯防止に協力する民間協力者に対して、活動する場所の提供や財政的な支援をする」38.3%が最も多い回答となっています。次いで「再犯防止のための計画を策定する」29.7%、「市民に対して、再犯防止について広報・啓発活動をする」26.9%となっています。



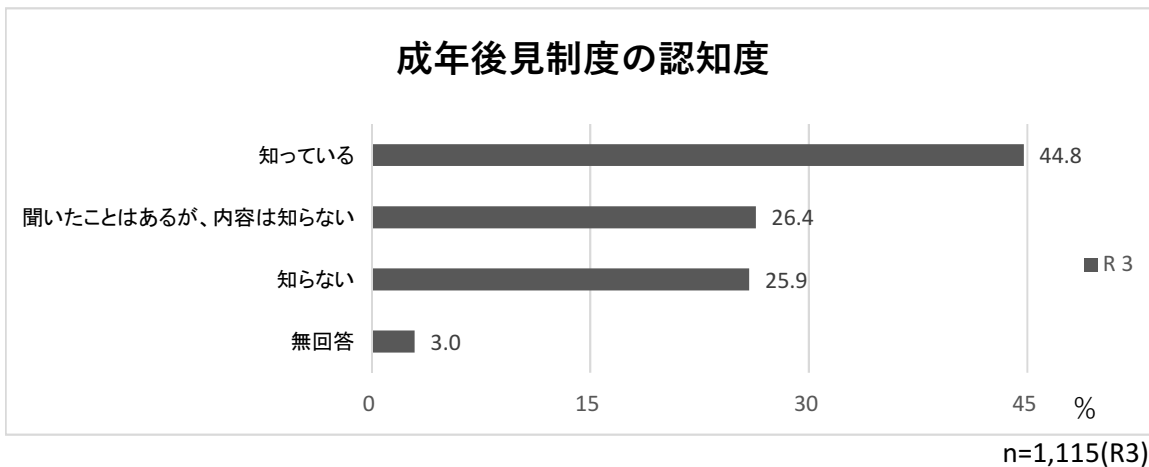
問23 再犯防止の取組みについての考え方は、次のどれに近いですか。
(○は1つ)

再犯防止の取組みに対する考え方では、「自分がやることは難しいが、取組みは必要だと思う」59.7%が最も多い回答となっています。次いで「積極的に協力することは難しいが、取り組んでいる人や団体を応援したい」20.8%、「わからない」11.5%となっています。



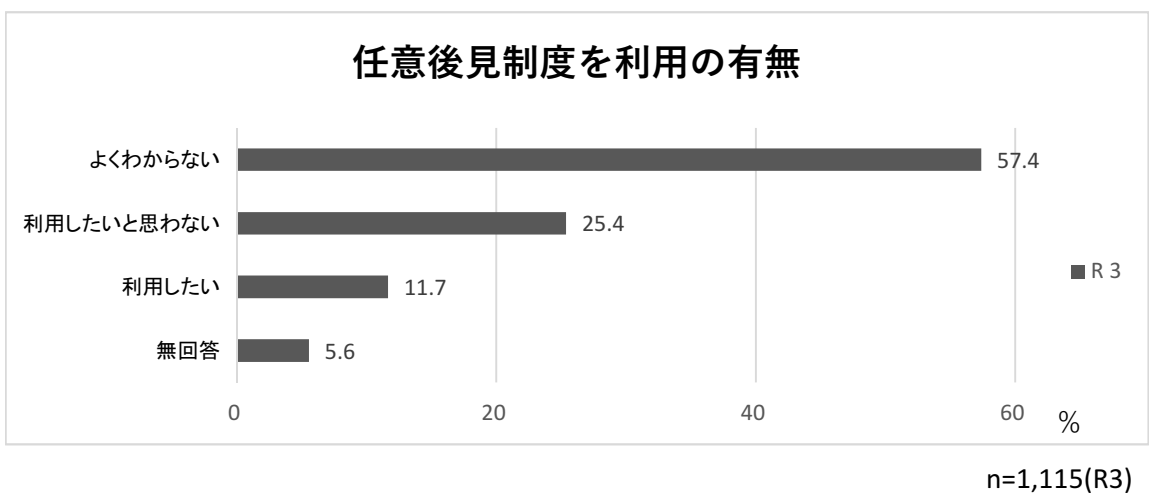
問24 成年後見制度を知っていますか。(○は1つ)

成年後見制度の認知度は、「知っている」44.8%が最も多い回答となっています。次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」26.4%、「知らない」25.9%となっています。
「聞いたことはあるが、内容は知らない」、「知らない」と回答した人は、52.3%でした。



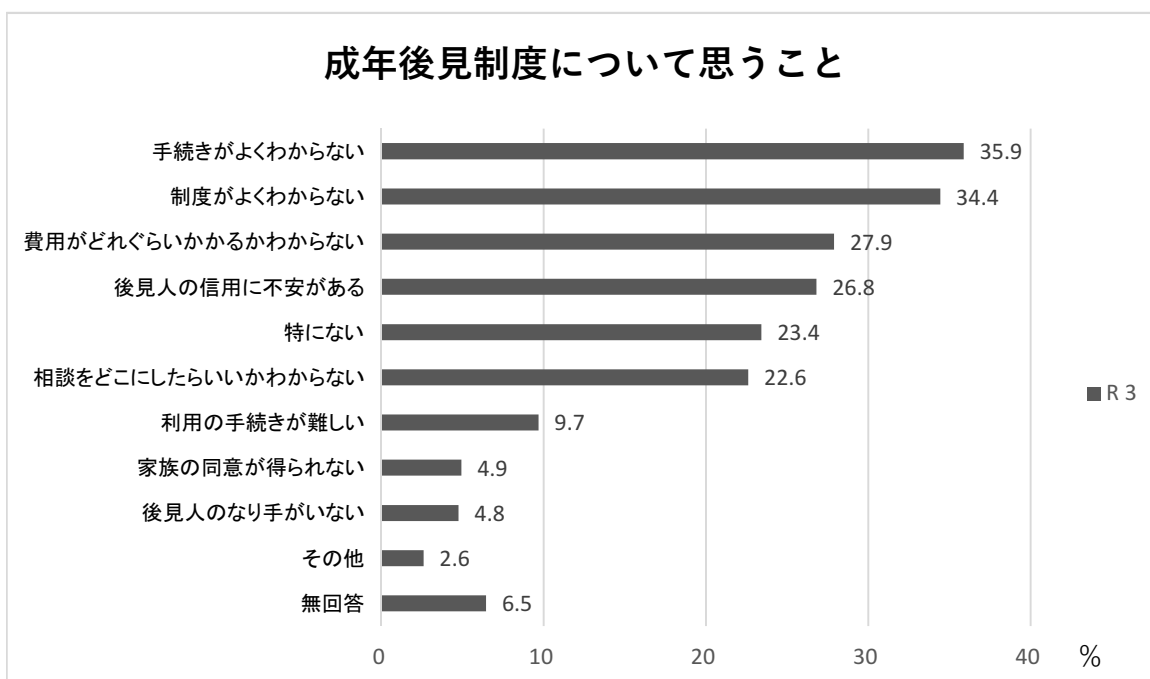
問25 成年後見制度には、法定後見制度のほかに、本人に十分な判断能力があるうちに、将来に備えて自ら代理人と契約する任意後見制度があります。このような任意後見制度を利用したいと思いますか。(○は1つ)

任意後見制度利用の有無は、「よくわからない」57.4%が最も多い回答となっています。次いで「利用したいと思わない」25.4%、「利用したい」11.7%となっています。



問26 成年後見制度について思うことはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

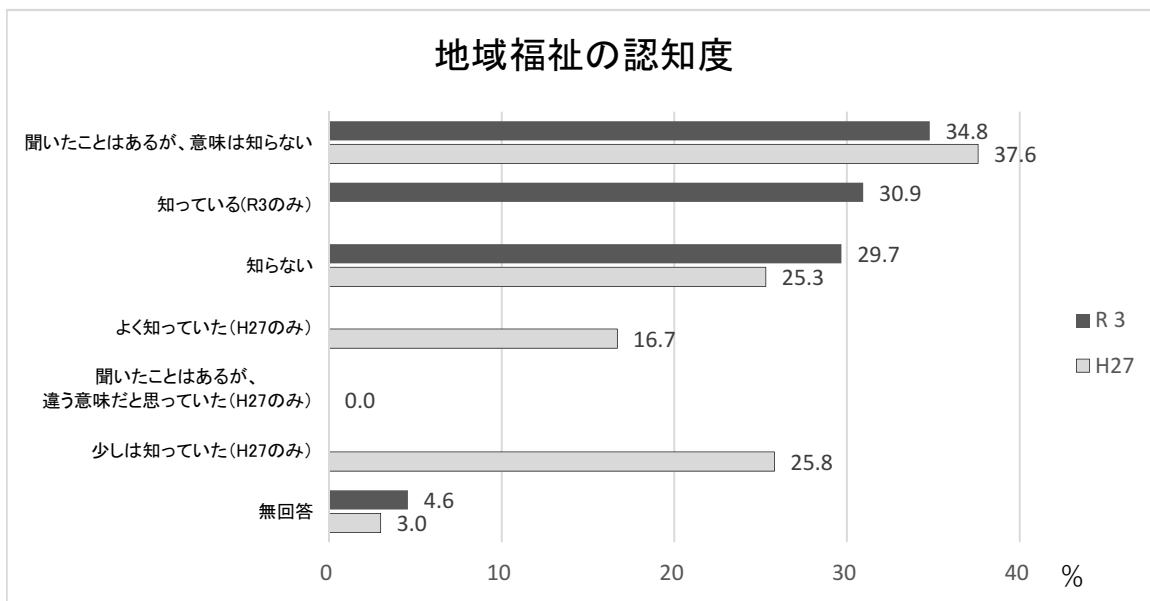
成年後見制度について思うことでは、「手続きがよくわからない」35.9%が最も多い回答となっています。次いで「制度がよくわからない」34.4%、「費用がどれくらいかかるかわからない」27.9%となっています。



n=1,115(R3)

問27 「地域福祉」という言葉や意味を知っていますか。(〇は1つ)

地域福祉の認知度は、「聞いたことはあるが、意味は知らない」34.8%が最も多い回答となっています。次いで「知っている」30.9%、「知らない」29.7%となっています。前回の調査より、「知らない」と回答した人が、4.4ポイント増えています。

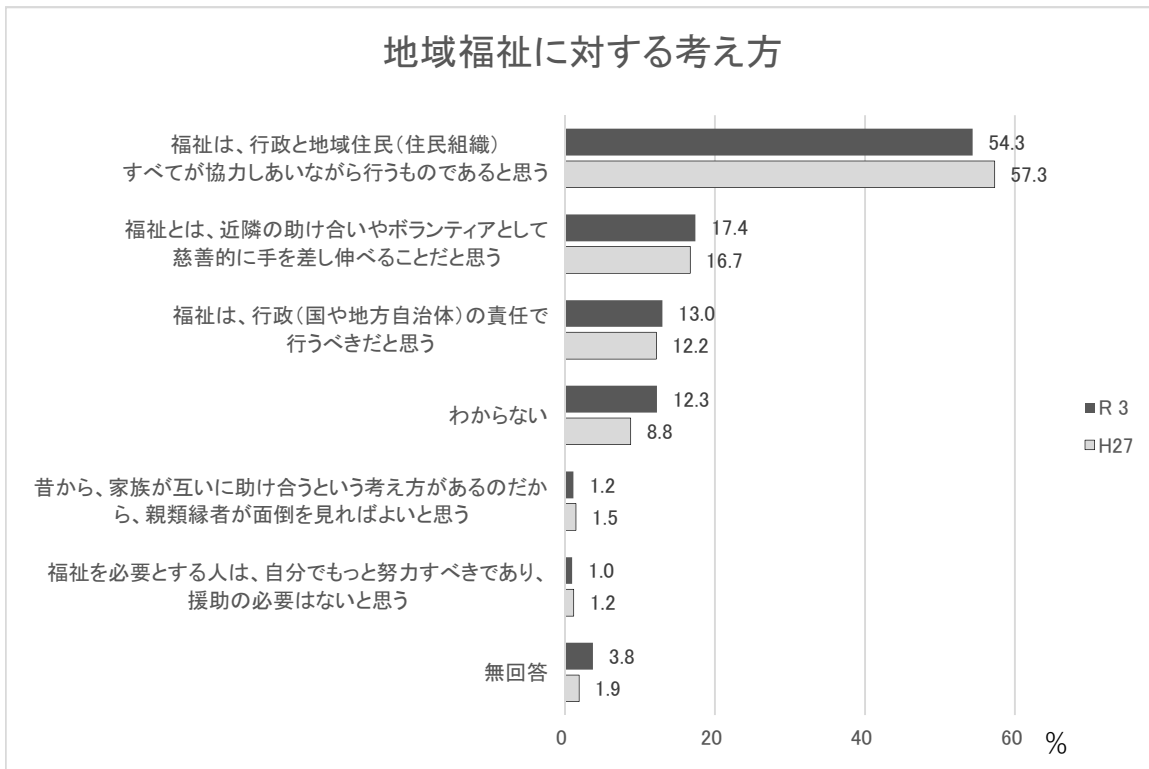


n=1,115(R3) n=1,097(H27)

問28 地域福祉に対する考え方は、次のどれに近いですか。(○は1つ)

地域福祉に対する考え方は、「福祉は、行政と地域住民(住民組織)すべてが協力しあいながら行うものであると思う」54.3%が最も多い回答となっています。次いで「福祉とは、近隣の助け合いやボランティアとして慈善的に手を差し伸べることだと思う」17.4%、「福祉は、行政(国や地方自治体)の責任で行うべきだと思う」13%となっています。

前回の調査でも、「福祉は、行政と地域住民(住民組織)すべてが協力しあいながら行うものであると思う」、「福祉とは、近隣の助け合いやボランティアとして慈善的に手を差し伸べることだと思う」、「福祉は、行政(国や地方自治体)の責任で行うべきだと思う」と回答した人の割合が高くなっていました。

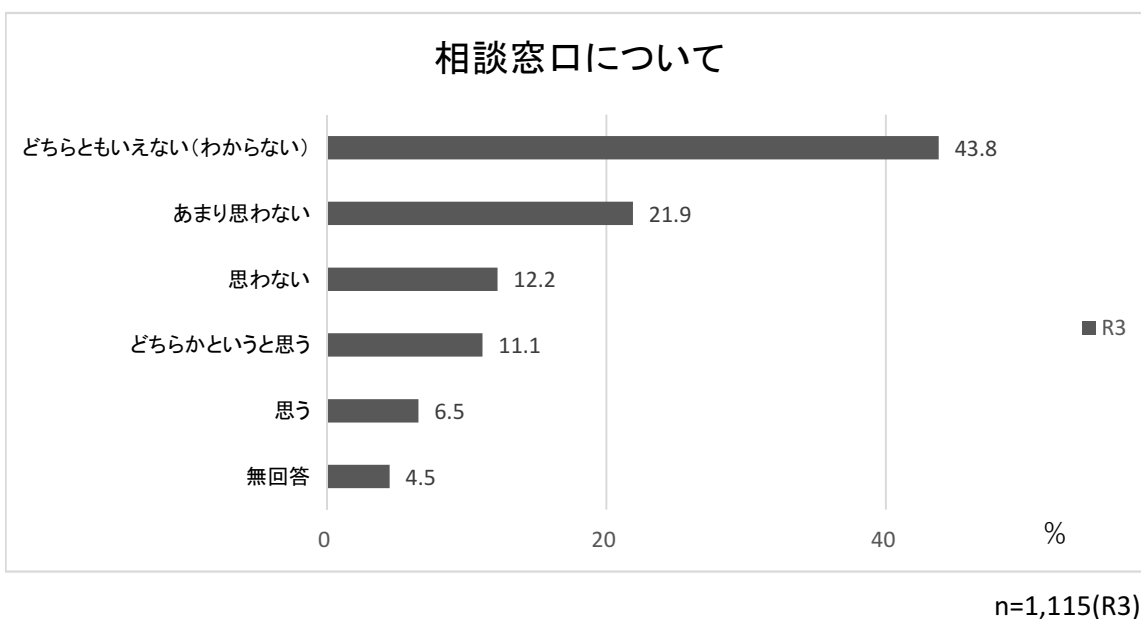


n=1,115(R3) n=1,097(H27)

問29 困りごとがあったときに、相談できる場、支援を受けることができる環境等が整備されていると思いますか。(〇は1つ)

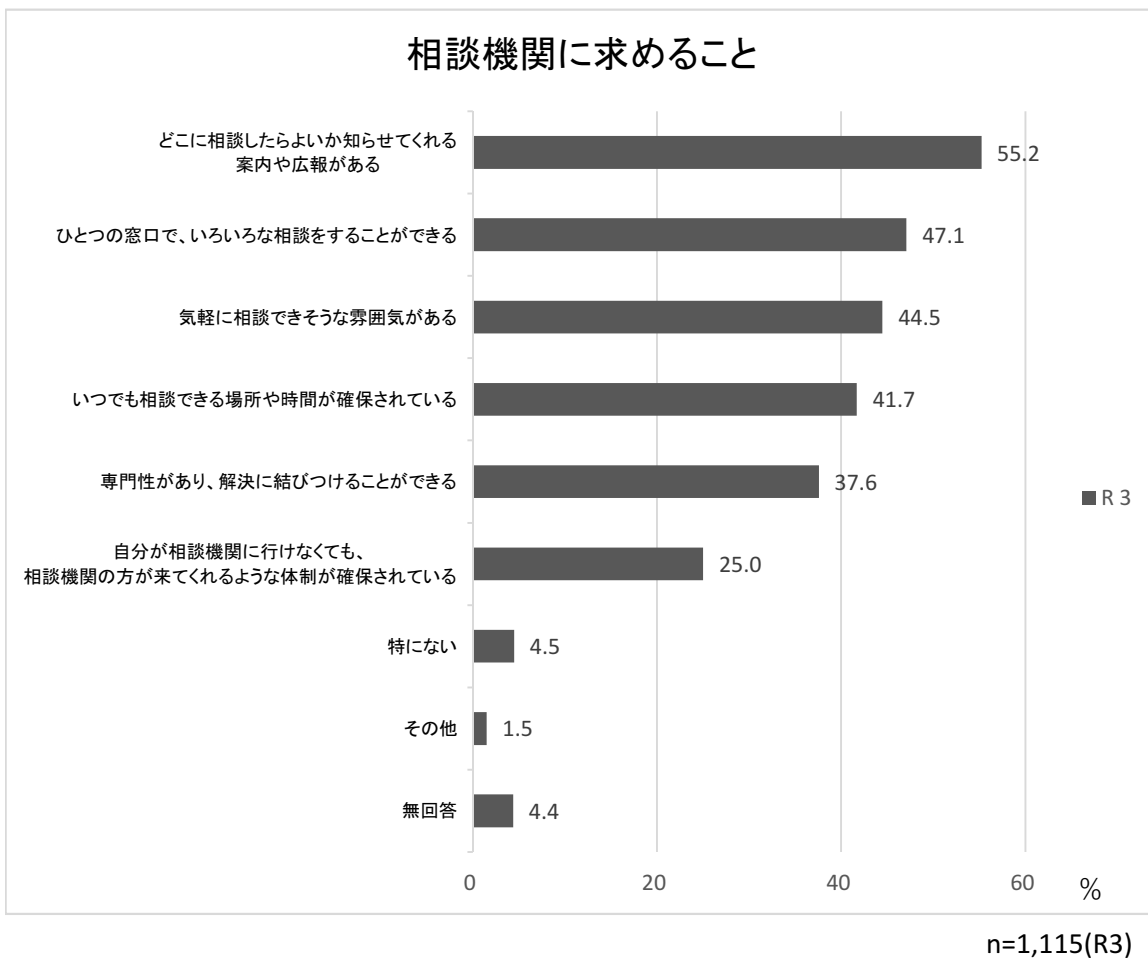
相談できる場や支援を受けることができる環境が整備されているかでは、「どちらともいえない(わからない)」43.8%が最も多い回答となっています。次いで「あまり思わない」21.9%、「思わない」12.2%となっています。

「どちらともいえない(わからない)」、「あまり思わない」、「思わない」と回答した人は、77.9%となっています。



問30 今後、様々な福祉の相談をすることになったとき、相談機関には
 どんなことを求めますか。(あてはまるものすべてに○)

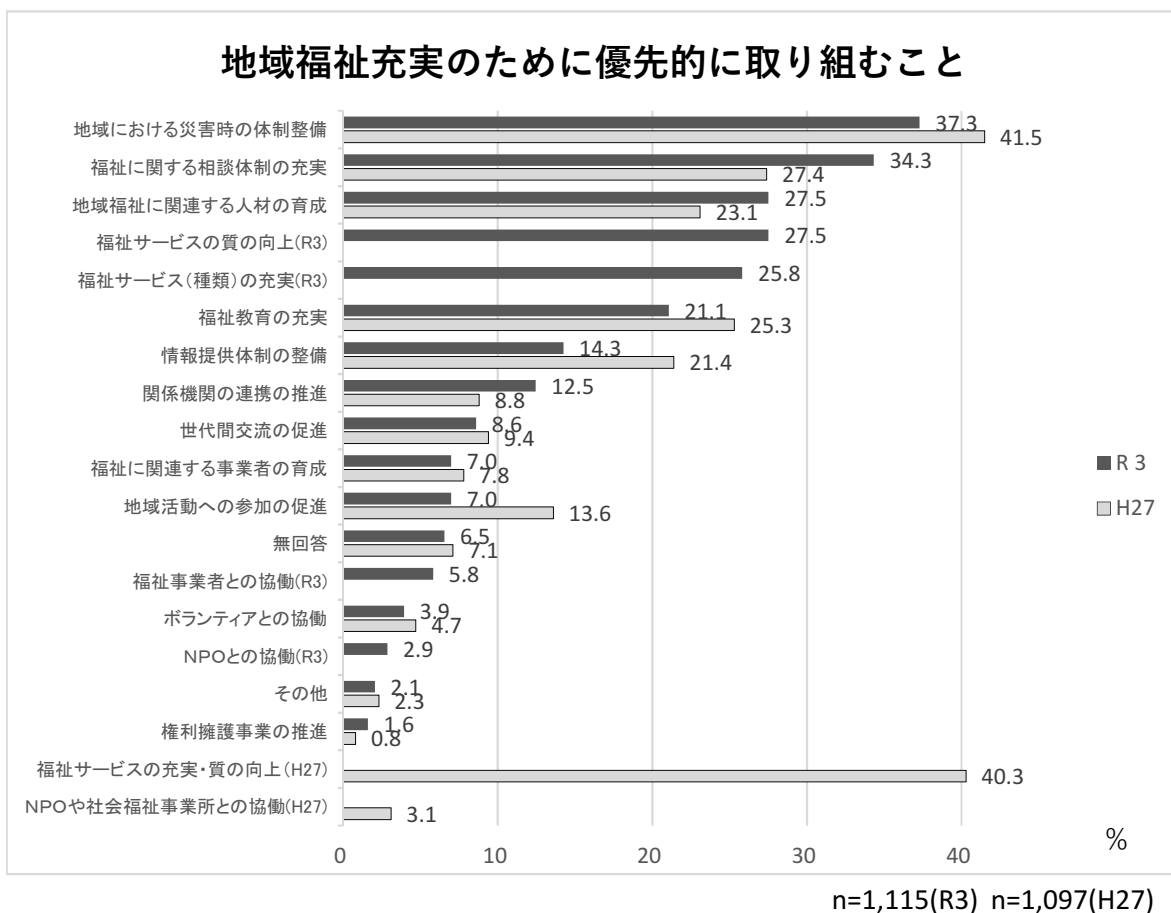
相談機関に求めることは、「どこに相談したらよいか知らせてくれる案内や広報がある」55.2%が最も多い回答となっています。次いで「ひとつの窓口で、いろいろな相談をすることができる」47.1%、「気軽に相談できそうな雰囲気がある」44.5%となっています。



問31 今後、地域福祉を充実させるために、優先的に取り組むべきものについて、次の中から選んでください。（〇は3つまで）

地域福祉充実のために優先的に取り組むことでは、「地域における災害時の体制整備」37.3%が最も多い回答となっています。次いで「福祉に関する相談体制の充実」34.3%、「地域福祉に関連する人材の育成」27.5%、「福祉サービスの質の向上」27.5%、「福祉サービス(種類)の充実」25.8%となっています。

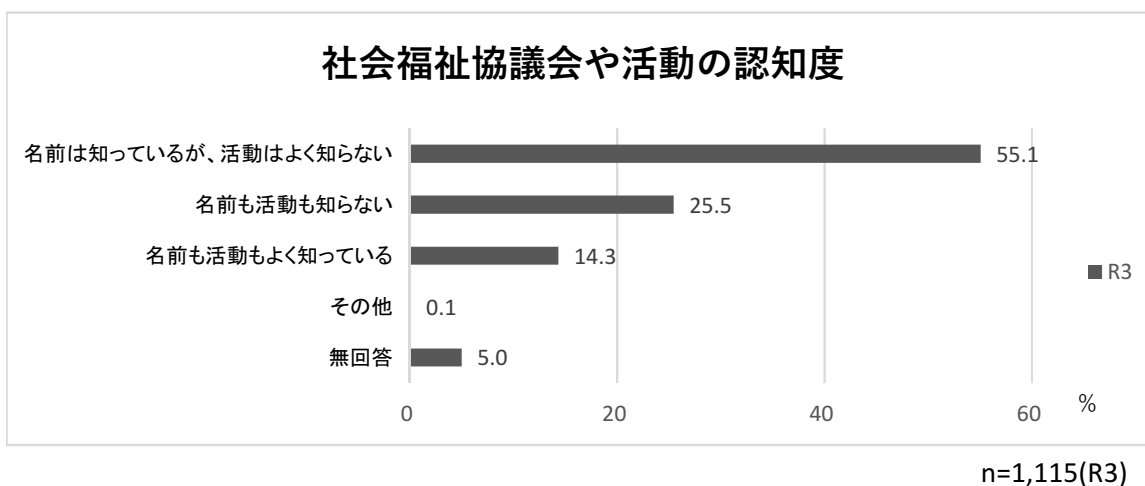
前回の調査でも、「地域における災害時の体制整備」、「福祉に関する相談体制の充実」、「福祉サービスの質の向上」と回答した人の割合が高くなっていました。



問32 久喜市社会福祉協議会という名前や久喜市社会福祉協議会の活動を
知っていますか。(○は1つ)

社会福祉協議会や活動の認知度は、「名前は知っているが、活動は良く知らない」
55.1%が最も多い回答となっています。次いで「名前も活動も知らない」25.5%、「名
前も活動も良く知っている」14.3%となっています。

「名前は知っているが、活動は良く知らない」、「名前も活動も知らない」と答えた人は
80.6%でした。



問33 久喜市社会福祉協議会の活動について、知っている活動を教えてください。
(あてはまるものすべてに○)

久喜市社会福祉協議会の活動について知っている活動は、「赤い羽根共同募金、歳末たすけあい募金」64.2%が最も多い回答となっています。次いで「地域での見守り・支え合い活動、地域の居場所づくりや交流活動の推進(福祉委員・ふれあい・いきいきサロン等)」26.8%、「社協だよりの発行やYouTube等による福祉の情報発信」24.2%となっています。

活動内容の認知度	R3(%)
赤い羽根共同募金、歳末たすけあい募金	64.2
地域での見守り・支え合い活動、地域の居場所づくりや交流活動の推進(福祉委員・ふれあい・いきいきサロン等)	26.8
社協だよりの発行やYouTube等による福祉の情報発信	24.2
福祉の総合相談窓口(福祉なんでも相談等)	23.7
車いす・福祉車両の貸出・紙おむつの配布等、福祉サービスの実施	23.2
障がい者施設の運営(久喜市けやきの木・久喜市くりの木)	21.1
地域包括支援センターや居宅介護支援事業所等の介護保険制度に基づく介護相談・支援	20.8
無回答	18.4
ボランティアへの支援やボランティア活動の紹介	14.6
生活困窮者の相談支援や生活福祉資金の貸付	10.9
福祉に関する講座や福祉教育の実施	9.5
高齢者や障がい者に対する法人後見事業や権利擁護(あんしんサポートねっと他)事業の実施	7.2
住民参加型の生活支援サービス(くき元気サービス・福祉有償運送等)	7.0
手話通訳者派遣事業	5.5
その他	3.8
福祉の専門職や関係機関のネットワークづくり	3.7
災害ボランティアセンターの運営	3.7

n=1,115(R3)

問34 久喜市社会福祉協議会では、制度の狭間で困りごとを抱える方や、日常生活のちょっとした困りごとや見守り等の支援を必要としている方の支援を行うため、住民参加による助け合いやボランティア活動を推進しています。これらの活動を活発にするためには、久喜市社会福祉協議会ではどのような取組みが重要だと思いますか。（〇は3つまで）

今後、社会福祉協議会が行うべき取組みは、「助け合い活動やボランティアに関するわかりやすい情報を提供する」35.3%が最も多い回答となっています。次いで「困っている人と支援ができる人との調整を図るコーディネーターの機能や相談体制を強化する」30.9%、「地域福祉の意義や助け合い活動の重要性をPRする」30.9%となっています。

取組み	R3(%)
助け合い活動やボランティアに関するわかりやすい情報を提供する	35.3
困っている人と支援ができる人との調整を図るコーディネーターの機能や相談体制を強化する	30.9
地域福祉の意義や助け合い活動の重要性をPRする	30.9
学校や地域での福祉教育を充実する	23.0
住民と一緒に困りごとや福祉課題を出し合い、解決に向けた取組みを行う組織づくりの推進	17.9
活動を始めたい人や人材育成のための講座や研修を行う	17.5
住民同士が出会い、交流や情報交換ができる場や機会を増やす	15.7
活動団体等への資金面の援助	13.1
わからない	12.1
活動に関する相談体制を充実する	10.3
無回答	7.6
その他	1.0

n=1,115(R3)

問35 地域福祉を進めていくうえでご意見がございましたら、ご自由にお書きください。

地域福祉を進めていくうえで、意見等を自由に記述してもらったところ、160名から回答がありました。代表的な意見を掲載します。

【地域福祉について】

・「福祉」という言葉は知っているが、「地域福祉」という言葉は、聞きなじみがない人も多いと思うし、「地域」ということがもっと知れるように、社協だより等にもPRすると良いと思う。例えば、なぜ「地域で福祉を支えるのか」など、大人も子供もあまり感じたことがないので、教育にも「地域福祉」が浸透すると良いと思う。

・看護学生で、授業で初めて地域福祉はどういうものかを知りました。地域福祉は、とても重要だと思えます。なので、小学校から、地域福祉について学んでいけば、少しでも良い地域になると思えます。まずは、住民の意識改革が必要であると思えます。

・障がいのある方でも安心して暮らしていける環境作りをもっと強化して欲しい。

・今まで「個人」あるいは「家庭」で行ってきた事ができなくなって行政主体で地域福祉を考えざるを得ず、そのための財政支出が負担になっていると思う。個人や家庭でやってもらうこと、行政でやらなくてはならないことの線引きをしっかりとしてほしい。それと、ボランティアやNPOの活動は大切だとは思いますが、そこにどれくらいのコストをかけているかなどももっとオープンに発信してほしい。

・公の場が何かをほどこすという事は無理、限かいはあると考えます。そしてボランティア、地域の見守り等もあまりにもあいまいで軽いと考えます。もうすぐ介護や福祉にも、このままでは限界がくると考え、もうすこし違う1歩を考えなければ地域福祉はくずれていくと思えます。みんなで共存して生きるとはもう少しナチュラルで、そして、一人一人が責任を負わなければボランティアや見守り等の仕組みでは成り立たっていかないと考えます。

【福祉について】

・今の日本では、福祉は元気なうちは関心が無いのが普通で、福祉活動は小学校に入った頃から教育し、実践し、身につくようになる。欧米の先進国では助け合いやボランティア活動が盛んだが、日本では今ひとつだと感じている。

・困ったことを相談できる人への支援はもちろんですが、相談に行けない人、もしくは第三者や周りから見て心配だと思えるような人への支援が重要。本当に困っている人は陰にかくれて見つけ出すことすら困難。相談に行けない、行かない人を放っておくのではなく、そういう人をひろって手を差しのべてほしい。待っているだけの受身の福祉ではいけない。

・福祉というと、大げさな感がありますが、皆で助け合っていける、地域をつくって欲しいと思えます。

・久喜市も他縣市と同じように、高齢化が進んできています。久喜市の地域福祉活動がみえなくわかりづらいので、もう少しわかりやすくして欲しい。ひとり暮らしの老人への情報や福祉サービスを充実して欲しいです。訪問調査して情報収集し、具体的なサービスが行えるのではないのでしょうか。

【情報提供について】

・「何かしたい」という人はたくさんいても、どうやって参加すればいいのか分からない人が多いと思う。広報紙でお知らせしても、そういうものを若い人はあまり読まなかったりするので、ホームページで分かりやすくお知らせ、若しくは参加の申し込みなどできたらいいかと思いました。(今はコロナで難しいですが、こども食堂があるといいと思いました。)

・今回、アンケートを通して初めて知った活動が多く、質問されていることがあまりよく分かりませんでした。世代を問わず多くの人に知ってもらうには学校での講習や、SNSを活用した方が良く思います。

・災害時や福祉(助け合い)といっても、自ら体験、利用する経験がないと理解が広まらない。実際に、ご利用されたみな様の経験談など分かりやすくご紹介いただければ理解を深めることが出来るのと、疑問に感じる事があれば、声をあげることが出来、更に制度が、広まり充実していくのではないのでしょうか?とにかく活動を紹介してください。そして、市民(利用者、参加者)の声を広く聞き入れてください。「しくみはあります」では、一方通行で、市民とまじりあうことはできません。しかし、アンケートは、聞く姿勢だと思しますので、市民と行政が受け入れ合うことが出来る第1歩でしょう。期待しております。

【制度の周知について】

・久喜市の取組が不足しているとは思わないですが、サービスや制度の拡充にばかり目が行ってしまうのがよくないと思います。既存のサービスや制度を十分に普及啓発することに注力すべきで、目下の課題をクリアすることを念頭に取組んでください。
・認知症についての情報提供を増やしていただけたら嬉しいです。オレンジリングやヘルプマークの認知度を上げて、たくさんの方に知ってほしいです。書類申請で市役所に伺った時、例えば介護課と国保課、社協さん窓口と別々にお知らせが届くことがあり、できれば各課や市役所と協議会で情報共有して、一回で効率的に取り組める仕組みにして欲しいです。

【相談窓口について】

・独り暮らしの家庭が増えているので、親族でなくても近所の人との相談ができると良いと思います。
・市の福祉課、社会福祉協議会、抱括センターなどの様な活動をしているのかよくわからない。相談事をするのを迷う。それぞれ明確に、高齢者でもわかりやすいよう内容を提供してほしい。
・気楽に相談できる雰囲気のある場所があるといいと思います。
・支援を必要としている時に、それは、ここではできませんの一言で終りにしてほしくないです。困っているから相談するのです。個人の領域に入るのはむずかしいかもしれませんが、社会が考えるよりも、ほんの少しの手助けがあれば、人はもう少し、楽に暮らせるのではないのでしょうか。
・私を含め、ほとんどの方は相談することを、悩みに悩んで助けを求めに行くとします。どうしたら助けることができるのか親身になって相談にのっていただきたいと思います。門前払いのような対応をされると、追い詰められてしまいます。
・行政と社協の役割がよくわからない。窓口は市民にとって一つがいいと思います。ダブっている。社協と市は、なぜ一緒にならないのか?市民は判りにくい。コロナになった時、お金が貧しくなった時、誰に相談していいか不安だ。

【見守り体制について】

・近隣のお住まいで、ひきこもりの方、障がいのある人がいることがわかっています。ご両親は積極的に住民、地域にとけこもうとはしていない気がします。あいさつすると返してくれます。なんだかいろいろ考えさせられることが多いと最近感じます。自身は子育て真っさい中で、小学生の朝の登校がいつも不安です。小さい子だけで長い距離を歩いているので。朝の局所的な見守りが欲しいと思っています。

・一部の自治会では、要援護者のマップが無く近所のどこに要援護者がいるのかは民生委員と区長しか知らない。よって自治会、自主防災組織で警戒レベル3の避難に対応漏れしてしまう。平時の避難訓練にて要援護者も一緒に活動し、声掛けできる仕組みに久喜市の見守り支援事業(登録制度)を見直して欲しい。そうでないと、民生委員や要援護者の方が地域(自治会、自主防災組織)から孤立してしまいます。個人情報保護にもまして大切なポイントだと考えます。

・これから、一人老人や老人世帯が増えていくと思います。なにか、様子をみれる仕組み等があればと思います。日常のささいな用事とか、声かけとか、日常生活に必要な事、気軽に相談できる事があるといいなあと思います。迷惑ではなく、日常生活を楽しむように。

・個人情報の関係で隣人の状況もわからない時代です。近所の理解が必要な人には、了承を得てから近所の援助をお願いしてもらいたいと思います。

【地域活動について】

・地域の活動では相互乗入れによる情報やサポート活動などが効果がある。(例えばサロンに民生委員・福祉委員が参画して、サポーター役も兼ねて、参加者から困っている事を聞いた
り、活動PRも出来る)地域の活動で、各地区のバラツキが見られる。求められる姿や指標を明確にして、評価を行ない底上げを図って欲しい。(各地区の方の話を聞くと不満を持っている方がおり、自治会、防犯防災計画の活動のバラツキをなくす施策が必要と思います)

・仕事を辞めて家庭にいます。いざ、何かやりたいと思っても、何をどうしてよいのかわかりません。キッカケづくりがあればいいなと思っています。

・久喜市内でも住民の流入・流出が多い地区と、そうでない地区があるので、それぞれの地区の現状に応じた取組ができればと思っています。

【交通について】

・福祉タクシーが本当に必要になっています。車の運転をやめても買物、病院に安い金額で行きたいです。タクシーは高い為年金額では無理です。自宅に居るしかありません。

・高齢者、障がい者が医療機関や買い物に行きやすい交通手段が欲しいと思います。免許返納後の生活不安を感じるから。

・人に助けてもらうほどではない事だけど、自分では出来なくなる事が多くなっていくと思うと、不安はあります。自動車が使えなくなったら、買物通院、銀行、役所、駅、コンビニどこにも行けなくなる。せめてコミュニティバスなどがあればと思います。

・循環バス等公共交通機関がぜひ欲しい。通院買い物に非常に不便を感じる、オンデマンドは使えない。交通・医療過疎地域となり、地域差が有り過ぎる。高齢者、単身者は住みづらい、全世代が住みたい町にして欲しい。

【交流について】

・「向こう三軒両隣」、私は普段からお互い負担にならない程度の交際を心がけています。今回のコロナウィルスのワクチン接種予約では、近所の40代の方が私が申し込んであげると申し出があり、おかげさまで2回目の接種もできました。「地域福祉」と言えば身を引く人も多いです。言葉より、普段からの態度、行動が重要ではないでしょうか、機器に不慣れな人を手助けすることも立派な地域福祉活動ではないですか。

・机上の活動ではなく、草の根活動で細やかな手助けができれば良い。何か近所であっても、勝手に手を出しにくい。もっと日頃の交流をしないと、都会並みの地域になりそう。

・今、地域社会では近所とのかかわりが少なく、困っていることも言えずに日常生活している人が多いようにみえます。

・久喜市も16万人位の人口を有しておりますが、旧来の家族制度が崩壊し人心の交流が少なくなりました。私は過去に久喜市高齢者大学で4年間色々な人との交流があったが、今後も交流の機会が増える場所、機関、制度などを望みます。

・ここ数年は町のイベント(運動会、お祭り等)がなく、全く地域の交流なくどこにどんな家庭があるのかわかりません。交流=単に話す機会を作るより、一緒に同じ目的に向かってとりくむことが必要です。地域で「ゴミ捨て」「避難訓練(避難場所に集まる)」「バザー」など、その様なものが月1回くらいあると参加できるときがあるのかなと感じました。

・核家族、共働き家庭が多く、「活動に参加出来ない」「そもそも発信される情報に目を通す機会がない」といった事情が多くあるように感じます。コロナ禍により、更なる地域住民との関わりの減少も危惧され、地域コミュニティ、活動の在り方についても、「新しい生活様式」に沿った方法にシフトしなければならないように考えます。市民も気軽に参加できるようなオンライン活動などの実践を期待します。

【ボランティア・NPOについて】

・ボランティアだけに頼らず、もっと行政で活動した方が良いと思います。ボランティアに協力できる人は高齢が多いように思います。

・協議会活動の中に「災害ボランティアセンター運営」があります。利根川決壊洪水など大規模災害への対応範囲(初動手順を含む)を県市行政側と事前調整しておくことをおすすめします。(地震や地域洪水など、通常活動が可能な運営環境から大きく外れるのはどんな時かを考慮すべき)

- ・あくまでも、ボランティアや助け合いは、自主的に行う事だと思っています。ただ、どう動けば良いのか判っていない事が多いので、活動をしやすいようにして行くのも一つだと思います。地域福祉は高齢者や社会的弱者に対してボランティア精神でおこなわれるが、支援や協力してくれる人々や若者に対して、対価を出さなければ社会全体が疲弊していく。
- ・ボランティアのハードルが高すぎると思う。もっと気軽に気楽にちょっとした時間でも始められる事があると、多くの人が行動を起こすきっかけになるのでは?遊び心を取り入れられそうな活動があれば、スタンプラリー美化活動とか。集団が苦手な人でも、一人参加しやすい事など、ボランティアスキルアップになりそうな事から始めたいかも?と。
- ・ボランティアにポイント制のようなものがあれば、以前、導入している市があったように記憶しています。元気な時のポイントを貯めておき、必要になった時気兼ねなく使えるように。福祉というにはあまり些細な事で困る時に。例えば数日間留守にする時の水やりなど民間の便利屋的なものは長く留守にするという個人情報でためられる。

【人材育成について】

- ・こまめに、お年よりの自宅を訪問し、気軽に声かけなど出来る人材を育てる。相談したくても、なかなか心は開いてくれない。よりそうと思う気持ちで対応する事によって開かれた福祉を。
- ・子どものころから障がいのある方や高齢者と接する機会を増やしてどういうことに困ってどうサポートしたら助かるのか等を知っておくと、困った人を見かけたらすぐに手助けできる人材が増えると思いました。また、子どもの頃から、当たり前のように障がい者や高齢者と接することで偏見を持たず自然と共生できる地域福祉につながると思いました。私は、介護士ですが、志したきっかけは祖父のヘルパーさんを小さいころから見ている、ヘルパーさんがきてから祖父も以前よりも明るくなったので、私も人助けできる職につきたいと思ったことです。また、中学校で特別支援学級があり、運動会等のイベント等一緒に過ごすこともあり、自然と接する機会があったので、困っている様子の時はすぐに手助けしたいと強く思うようになり、社会人になっても、その思いは変わらないです。コロナが収まったら、小中学校での障がい児・者、高齢者とのふれあう機会をぜひ多く作っていただきたいです。
- ・小学生のうちから、地域福祉教育を充実させていく事が重要だと思います。コロナ禍では難しいとは思いますが、施設(高齢者・障がい者)への訪問、現場の声を実際に聞く等が必要だと思います。

【社会福祉協議会について】

- ・社会福祉協議会(社協)を知らない方が多いように思います。社協をもう少し市民にPRしたらよいかと思います。
- ・社協だよりの内容の充実、SNSを使用したPRなどをして周知すると良いと思います。
- ・社会福祉協議会は各地域の集まり(コミュニティー活動、夏祭り等)に参加して、PR活動や、その時に応じた情報を提供するようにされてはどうでしょうか。社会福祉協議会や活動を知ってもらおう。
- ・今後、地域福祉を利用する機会が増していくと思いますので、協議会の活動を理解して利用し、参加していきたいと思っています。

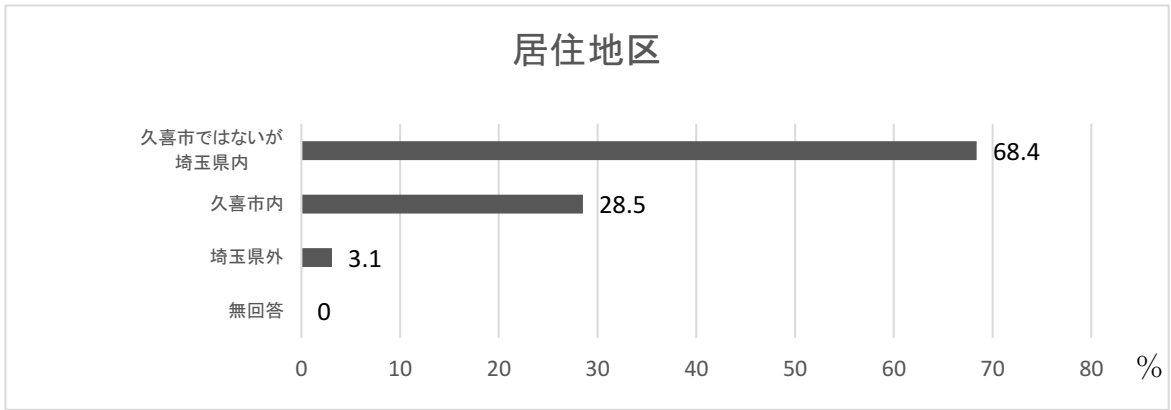
【その他】

- ・日曜日、祝日の預かりができる保育園等をもっと充実して欲しいです。
- ・就職、結婚、子育て、子供の家庭環境など若い人達への支援を特に希望します。
- ・健康であることがなにより、大切で重要なこと、それに対して若い時から、日常、運動、生活習慣を整えられるように教育、活動できる場が、たくさんあるといいと思います。死ぬまで、自分で歩いていたいと思っています。
- ・福祉活動を続ける健康づくり。体力など強化。
- ・近所では、高齢化、一人住まい、空き家や草木未手入れの増加、農地放棄の増加、無職の子供の生活費負担、老々介護など、久喜市過疎地では特に深刻です。これから増えるこれらに私たちの血税を有効に使ってほしい。
- ・今、若者達の考え方として、結婚に対して消極的のようすが伺える(近所で独身男女を見かけるため)。親が老いて行く事をもっと深刻に考えるべき。そしてぜひ、地域に帰って(地元で)生活を考えてほしい。年老いた親が取り残されない様にぜひ考えてほしいです。
- ・今は仕事と家庭のことでいっぱいいっばいで、地域のことにも目を向ける機会はほとんどないです。もっと年を取って、内容が身近に感じられたら、真剣に考えるようになる気がします。

- ・住宅に関わる仕事をしています。高齢者がだまされない仕組み、空家利用、流通活性などが、雇用も含め市内に人、企業を呼び市内日中人口が増化し、様々な問題を前進につなげるのでは、と思っています。
- ・それぞれの家庭の事情があり、たやすく入りにくいので情報はしっかりつかみ、安全な地域づくりを協力したい。
- ・アンケートを通して、とても多くの活動をしていることを知りました。できることがあればいいと思います。年齢を考えると難しい。
- ・自身が困る場面がなかったので、深く考える機会がありませんでした。いざ必要な時がきたら困るだろうなと思いました。(どうしたらいいか、わからずに)社会人になってから転勤で移り住んだため、地域の関わりが薄いまま年月が経っています。自分が住む地域がどんなところか、何をできるか、知りたいと思いました。

3 高校生アンケート調査の結果

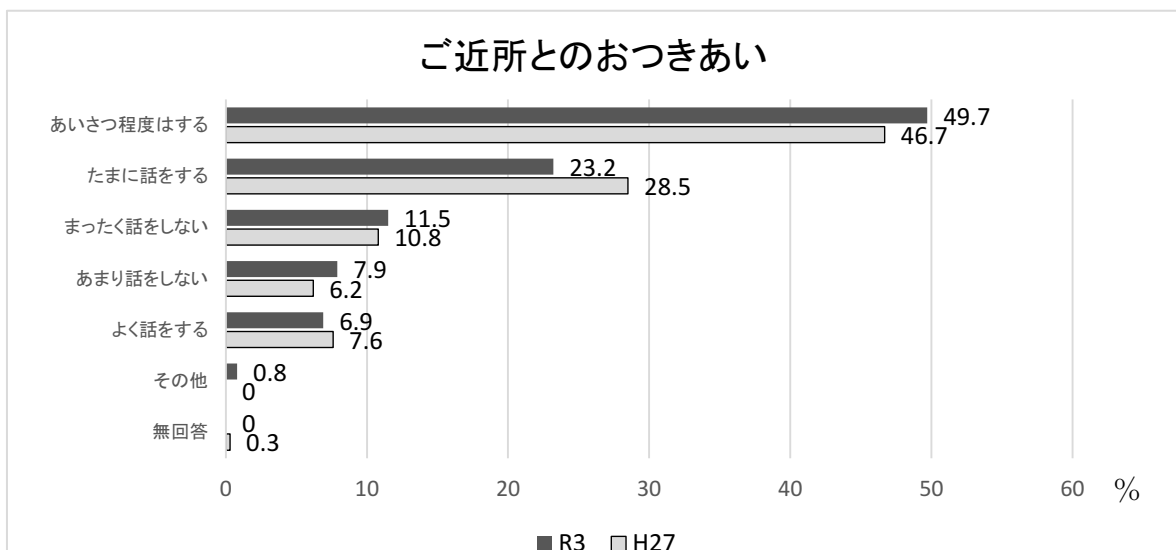
問1 お住まいは。(〇は1つ)



n=392(R3)

問2 近所の方とどのような付き合いをしていますか。(〇は1つ)

近所付き合いは、「あいさつ程度はする」49.7%が最も多い回答となっています。次いで「たまに話をする」23.2%、「まったく話をしない」11.5%となっています。「たまに話をする」と「よく話をする」と回答した人は30.1%でした。前回の調査では、36.1%でした。



n=392(R3) n=660(H27)

問3 地域の行事に参加したことがありますか。(それぞれに1つずつに○)

地域の行事の参加状況は、「地域のまつり」81.4%が最も多い回答となっています。次いで「小中学校行事」72.4%、「地区運動会・スポーツ大会」49.8%となっています。

前回の調査でも、「地域のまつり」、「小中学校行事」、「地区運動会・スポーツ大会」に参加したことがあると回答した人の割合が高くなっていました。

前回の調査より、「防災訓練」や「ボランティア活動」に参加したことがあると回答した人の割合が高くなっていました。

参加状況

質問項目	R3 (%)		
	したことがある	したことがない	無回答
①一斉清掃	36.5	60.7	2.8
②地域のまつり	81.4	17.3	1.3
③地区運動会・スポーツ大会	49.8	48.7	1.5
④資源回収	46.2	51.8	2.0
⑤小中学校行事	72.4	25.8	1.8
⑥地区文化祭	27.8	54.6	17.6
⑦防災訓練	35.7	62.0	2.3
⑧ボランティア活動	45.2	52.8	2.0
⑨その他の地域の行事	4.6	57.7	37.7

n=392

質問項目	H27 (%)		
	したことがある	したことがない	無回答
①一斉清掃	37.3	59.1	3.6
②地域のまつり	78.9	18.8	2.3
③地区運動会・スポーツ大会	43.5	52.1	4.4
④資源回収	43.2	53.2	3.6
⑤小中学校行事	61.8	35.0	3.2
⑥地区文化祭	25.0	71.2	3.8
⑦防災訓練	28.5	67.9	3.6
⑧ボランティア活動	38.6	57.6	3.8
⑨その他の地域の行事	2.3	43.5	54.2

n=660

問3 今後、地域活動への参加の依頼があった場合、参加してみたいですか。
(それぞれに1つずつに○)

今後の地域の行事の参加状況は、「地域のまつり」57.9%が最も多い回答となっています。次いで「小中学校行事」37.8%、「地区文化祭」33.2%となっています。

前回の調査では、「地域のまつり」、「小中学校行事」、「ボランティア活動」と回答した人の割合が高くなっていました。

前回の調査より、「防災訓練」や「ボランティア活動」に参加したいと回答した人の割合が高くなっていました。

今後の参加状況

質問項目	R3 (%)			
	したい	したくない	わからない	無回答
①一斉清掃	20.2	29.3	45.9	4.6
②地域のまつり	57.9	13.8	24.5	3.8
③地区運動会・スポーツ大会	27.3	33.4	35.7	3.6
④資源回収	21.7	30.1	44.4	3.8
⑤小中学校行事	37.8	22.4	36.5	3.3
⑥地区文化祭	33.2	20.9	42.6	3.3
⑦防災訓練	28.6	23.4	44.4	3.6
⑧ボランティア活動	31.9	22.2	42.3	3.6
⑨その他の地域の行事	5.6	16.3	41.3	36.8

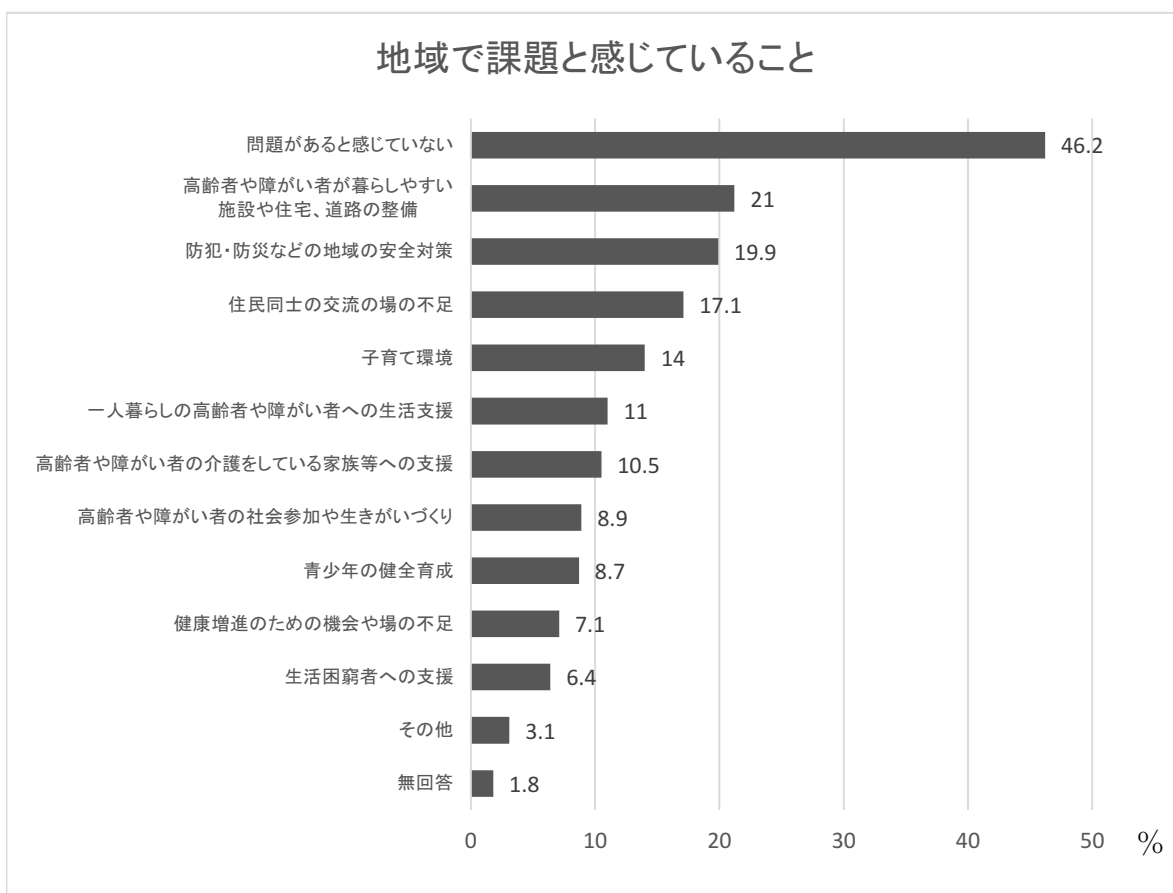
n=392

質問項目	H27 (%)			
	したい	したくない	わからない	無回答
①一斉清掃	20.7	32.7	42.1	4.5
②地域のまつり	54.1	15.5	26.1	4.3
③地区運動会・スポーツ大会	28.5	37.4	30.3	3.8
④資源回収	20.3	34.7	40.2	4.8
⑤小中学校行事	30.0	29.5	36.1	4.4
⑥地区文化祭	28.6	27.9	39.1	4.4
⑦防災訓練	22.4	32.3	41.2	4.1
⑧ボランティア活動	29.8	25.5	41.2	3.5
⑨その他の地域の行事	6.2	15.0	28.3	50.5

n=660

問4 お住まいの地域で課題と感じていることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

地域で課題と感じていることでは、「問題があると感じていない」46.2%が最も多い回答となっています。次いで「高齢者や障がい者が暮らしやすい施設や住宅、道路の整備」21%、「防犯・防災などの地域の安全対策」19.9%、「住民同士の交流の場の不足」17.1%となっています。

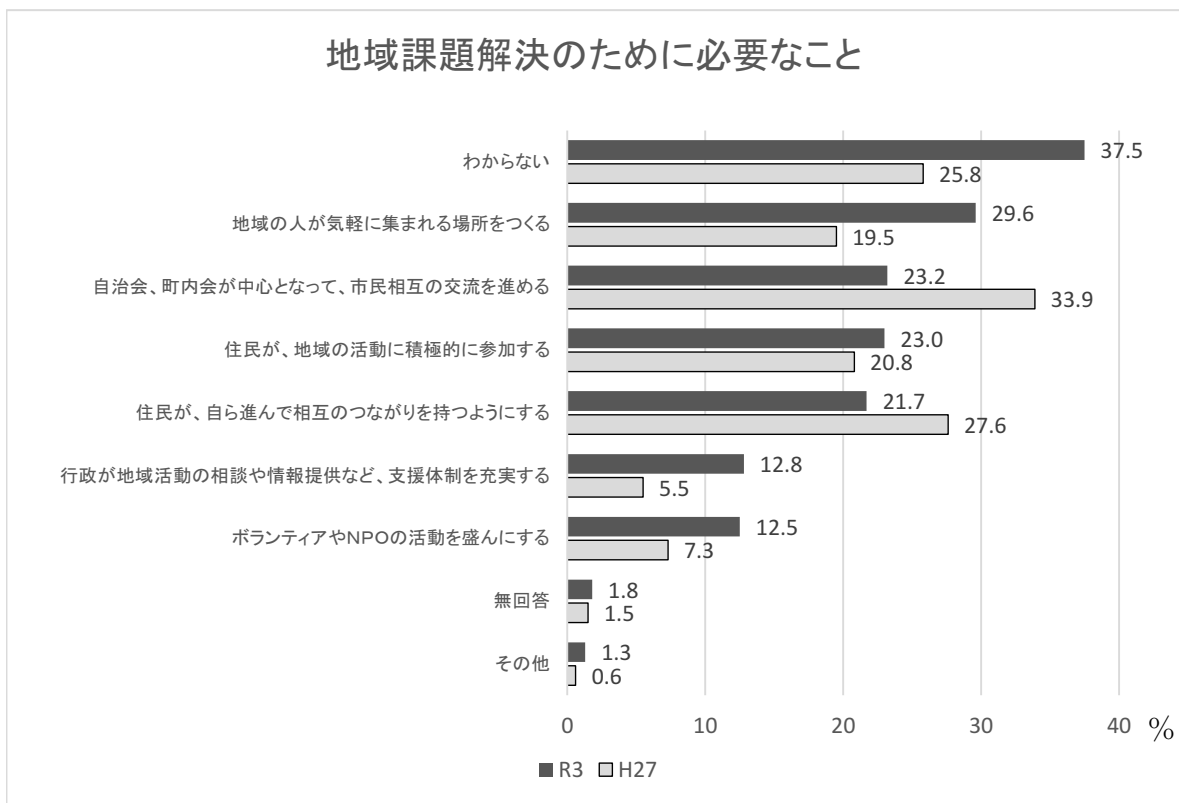


n=392(R3)

問5 お住まいの地域で課題と感じていることに対し、住民が相互に協力するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

地域課題に対して、住民相互に協力するために必要なことでは、「わからない」37.5%が最も多い回答となっています。次いで「地域の人が気軽に集まれる場所をつくる」29.6%、「自治会、町内会が中心となって、市民相互の交流を進める」23.2%、「住民が地域の活動に積極的に参加する」23%となっています。

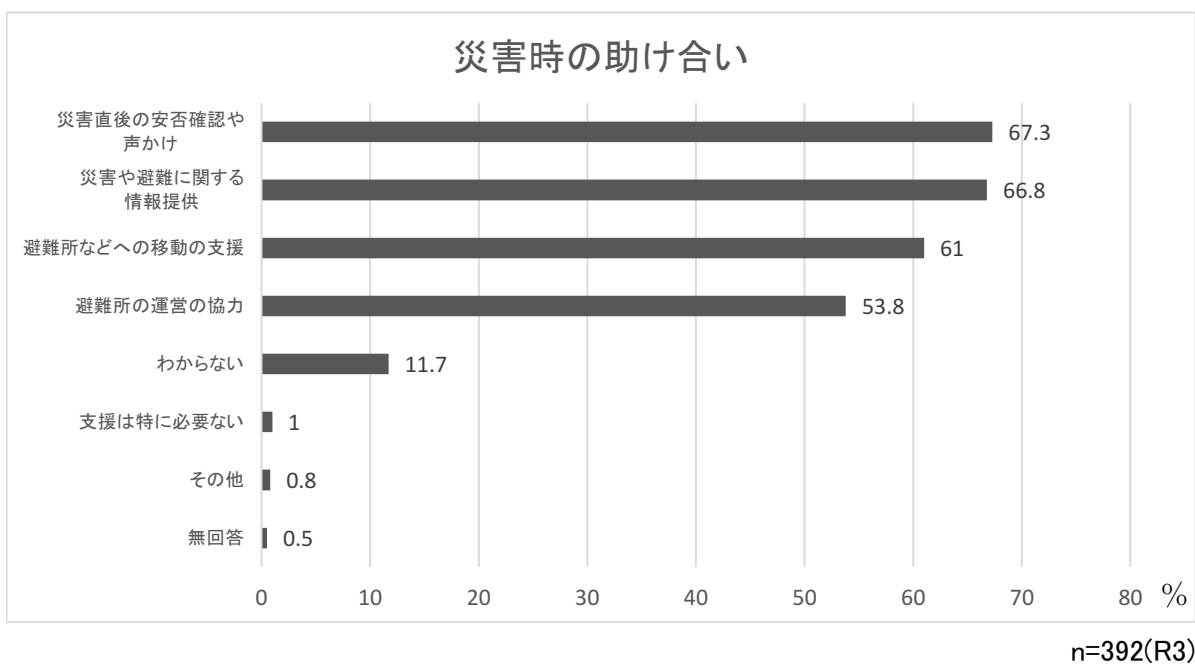
前回の調査では、「自治会、町内会が中心となって、市民相互の交流を進める」、「住民が、自ら進んで相互のつながりを持つようにする」、「住民が地域の活動に積極的に参加する」と回答した人の割合が高くなっていました。



n=392(R3) n=660(H27)

問6 災害が起こった場合に、住民がお互いにどのような支援をすることが必要だと考えますか。(あてはまるものすべてに○)

災害が起こった場合に、住民同士でどのような支援が必要かでは、「災害直後の安否確認や声掛け」67.3%が最も多い回答となっています。次いで「災害や避難に関する情報提供」66.8%、「避難所などのへの移動の支援」61%となっています。



問7 参加したことがあるボランティア活動はどれですか。(それぞれ1つずつに○)

参加したことがあるボランティア活動は、「自然や環境保護に関する活動」43.1%が最も多い回答となっています。次いで「子育ての支援や子どもの世話」33.9%、「高齢者への支援」27%となっています。

前回の調査でも、「自然や環境保護に関する活動」、「子育ての支援や子どもの世話」、「高齢者への支援」と回答した人の割合が高くなっていました。

質問項目	R3(%)		
	参加したことがある	参加したことがない	無回答
高齢者への支援(老人ホームなどへの訪問や手伝い)	27.0	71.7	1.3
障がいがある大人や子どもへの支援(手助け、遊び、勉強などの交流)	16.1	82.4	1.5
子育ての支援や子どもの世話 (子ども会活動や子どもの遊び相手など)	33.9	65.3	0.8
自然や環境保護に関する活動 (花壇作りやゴミ拾いなど)	43.1	55.9	1.0
国際交流に関する活動	6.6	91.6	1.8
青少年の健全育成に関する活動	6.9	92.1	1.0
スポーツ・文化に関する活動	24.0	75.0	1.0
災害救助、復興支援の活動	5.6	93.1	1.3
その他	1.5	50.0	48.5

n=392

質問項目	H27(%)		
	参加したことがある	参加したことがない	無回答
高齢者への支援(老人ホームなどへの訪問や手伝い)	25.8	70.6	3.6
障がいがある大人や子どもへの支援(手助け、遊び、勉強などの交流)	16.5	80.0	3.5
子育ての支援や子どもの世話(子ども会活動や子どもの遊び相手など)	35.0	60.9	4.1
自然や環境保護に関する活動(花壇作りやゴミ拾いなど)	40.0	56.8	3.2
国際交流に関する活動	5.9	90.0	4.1
青少年の健全育成に関する活動	6.5	89.3	4.2
スポーツ・文化に関する活動	24.7	71.5	3.8
災害救助、復興支援の活動	9.8	86.1	4.1
その他	37.1	62.4	0.5

n=660

問7 参加してみたいボランティア活動はどれですか。(それぞれ1つずつに○)

今後参加したいボランティア活動は、「子育ての支援や子どもの世話」41.6%が最も多い回答となっています。次いで「自然や環境保護に関する活動」34.9%、「災害救助、復興支援の活動」32.4%となっています。

前回の調査では、「子育ての支援や子どもの世話」、「災害救助、復興支援の活動」、「スポーツ・文化に関する活動」と回答した人の割合が高くなっていました。

質問項目	R3(%)			
	参加したい	参加したくない	わからない	無回答
高齢者への支援(老人ホームなどへの訪問や手伝い)	24.0	27.0	46.2	2.8
障がいがある大人や子どもへの支援(手助け、遊び、勉強などの交流)	28.0	24.0	44.9	3.1
子育ての支援や子どもの世話 (子ども会活動や子どもの遊び相手など)	41.6	22.2	32.6	3.6
自然や環境保護に関する活動 (花壇作りやゴミ拾いなど)	34.9	21.7	40.3	3.1
国際交流に関する活動	21.7	29.3	46.4	2.6
青少年の健全育成に関する活動	13.5	29.4	53.8	3.3
スポーツ・文化に関する活動	30.1	23.2	44.1	2.6
災害救助、復興支援の活動	32.4	19.6	45.4	2.6
その他	3.8	11.7	39.6	44.9

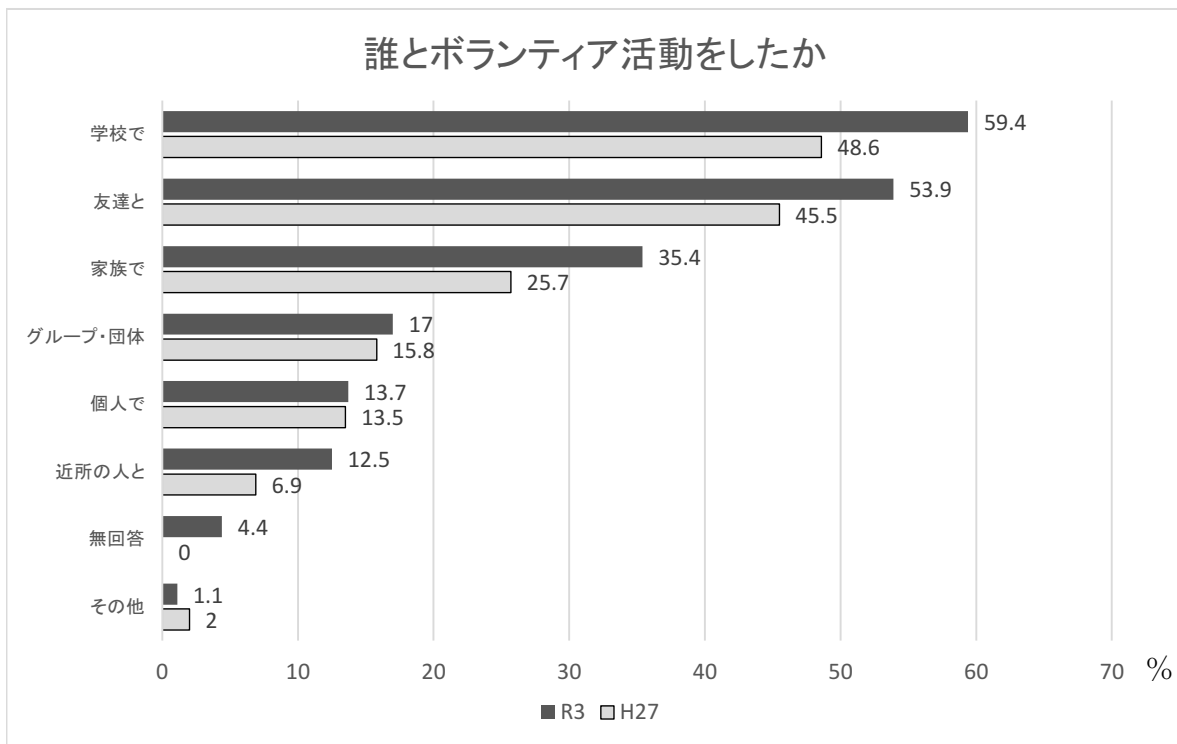
n=392

質問項目	H27(%)			
	参加したい	参加したくない	わからない	無回答
高齢者への支援(老人ホームなどへの訪問や手伝い)	24.0	26.4	44.8	4.8
障がいがある大人や子どもへの支援(手助け、遊び、勉強などの交流)	23.9	25.0	46.3	4.8
子育ての支援や子どもの世話(子ども会活動や子どもの遊び相手など)	38.6	21.2	36.1	4.1
自然や環境保護に関する活動(花壇作りやゴミ拾いなど)	30.6	23.3	41.1	5.0
国際交流に関する活動	23.5	28.0	44.1	4.4
青少年の健全育成に関する活動	14.2	29.1	52.3	4.4
スポーツ・文化に関する活動	32.0	23.6	39.7	4.7
災害救助、復興支援の活動	33.5	18.5	43.2	4.8
その他	4.4	11.5	26.2	57.9

n=660

問7-1 誰と一緒にボランティア活動をしましたか。(あてはまるものすべてに○)

一緒にボランティア活動した人は、「学校」59.4%が最も多い回答となっています。次いで「友達」53.9%、「家族」35.4%となっています。
 前回の調査でも、「学校」、「友達」、「家族」と回答した人の割合が高くなっていました。



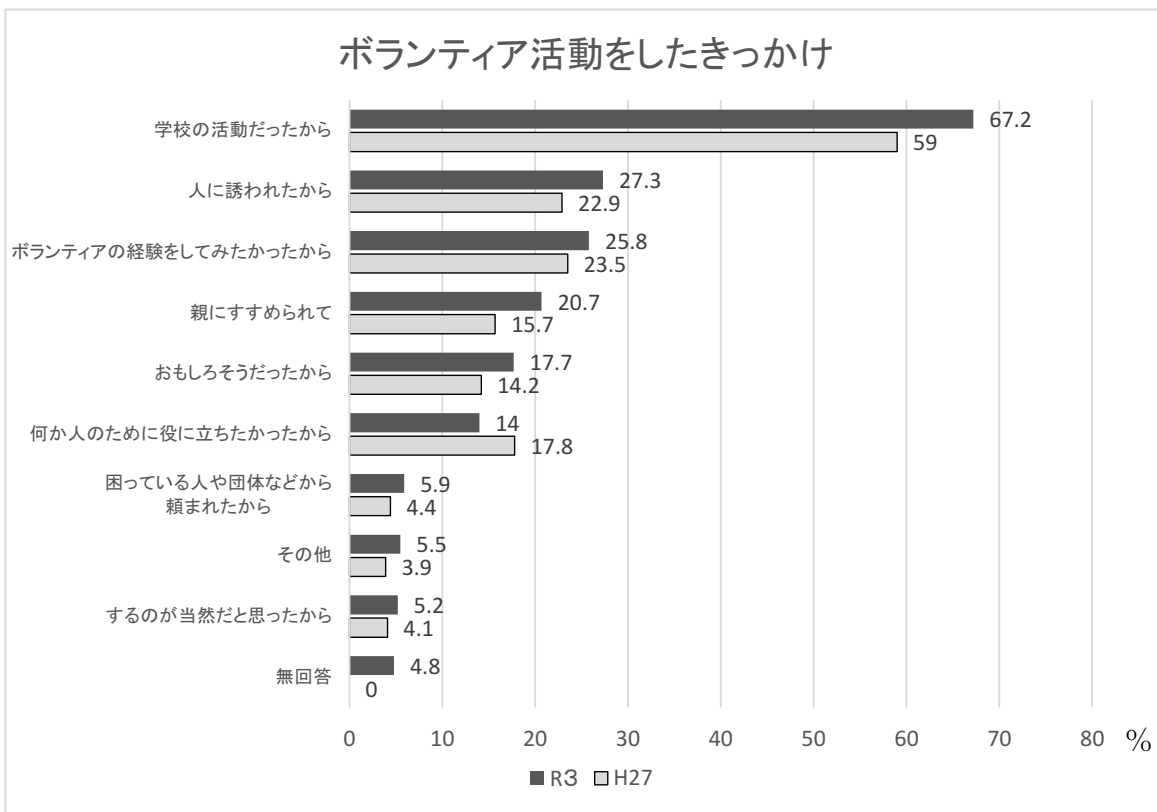
n=271(R3) n=393(H27)

問7-2 ボランティア活動をしたきっかけは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

ボランティア活動をしたきっかけは、「学校の活動だったから」67.2%が最も多い回答となっています。次いで「人に誘われたから」27.3%、「ボランティアの体験をしてみたかったから」25.8%となっています。

前回の調査でも、「学校の活動だったから」、「人に誘われたから」、「ボランティアの体験をしてみたかったから」と回答した人の割合が高くなっていました。

前回の調査より、「ボランティアの体験をしてみたかったから」、「するのが当然だと思ったから」と回答した人の割合が多くなっています。



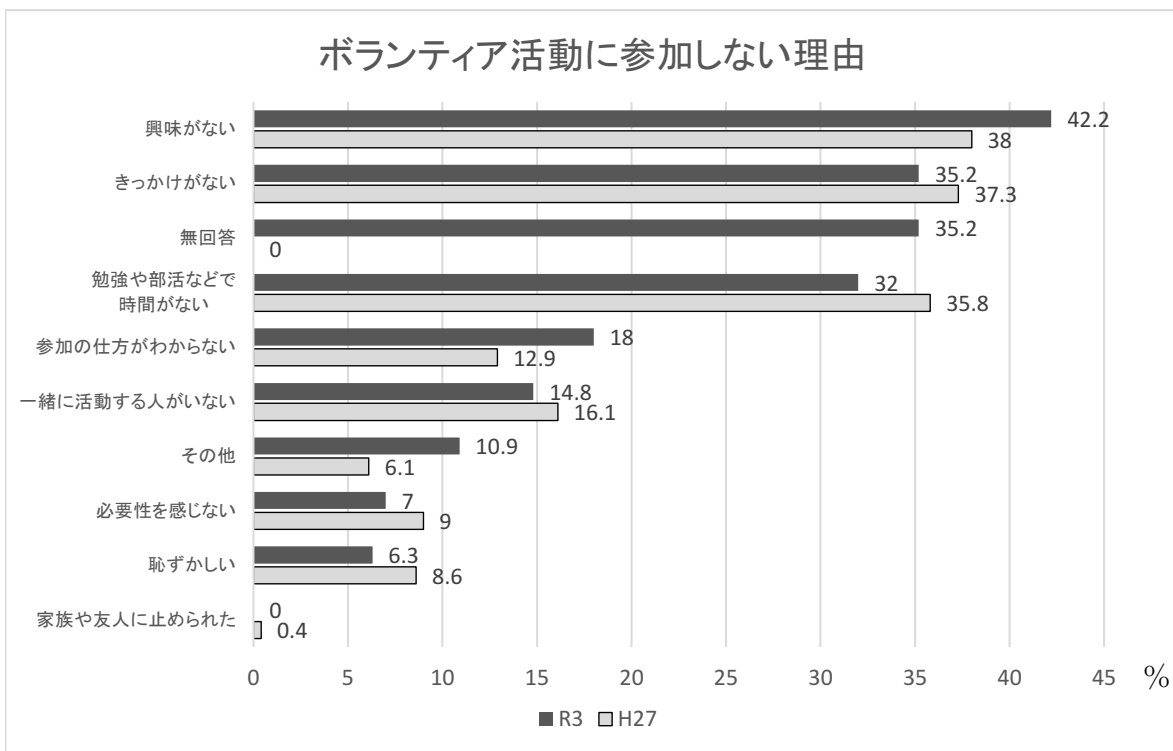
n=271(R3) n=388(H27)

問7-3 (ボランティア活動にまったく参加したことがない、
または、今後、参加したくないと回答した方にお聞きします)
それはどんな理由からですか。(〇は3つまで)

ボランティア活動に参加しない理由は、「興味がない」42.2%が最も多い回答となっています。次いで「きっかけがない」35.2%、「勉強や部活などで時間がない」32%となっています。

「きっかけがないが」35.7%、「参加の仕方がわからない」が18%、「一緒に活動する人がいない」が14.8%となっています。

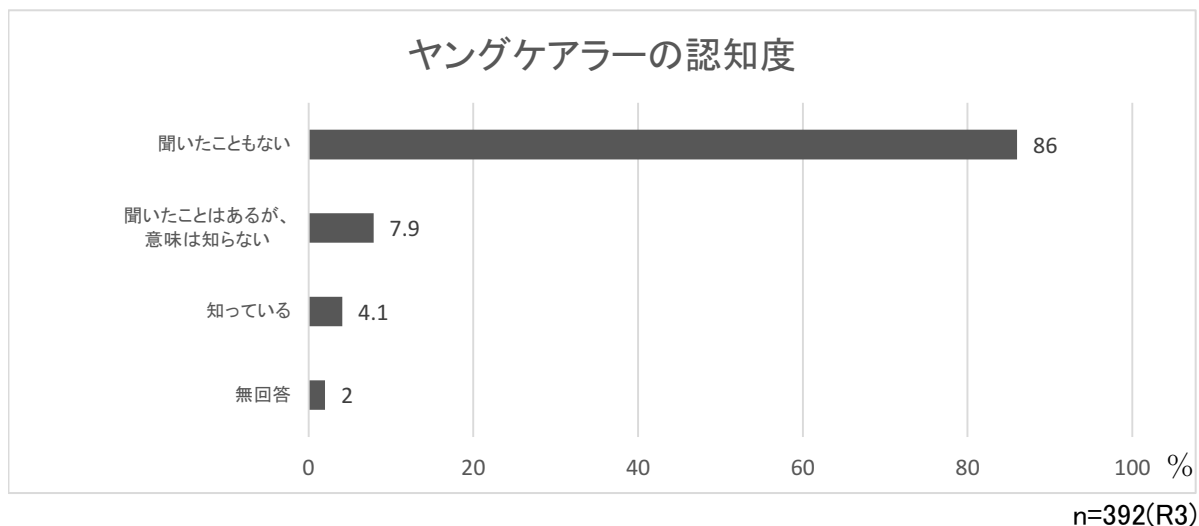
前回の調査でも、「興味がない」、「きっかけがない」、「勉強や部活などで時間がない」と回答した人の割合が高くなっていました。



n=128(R3) n=279(H27)

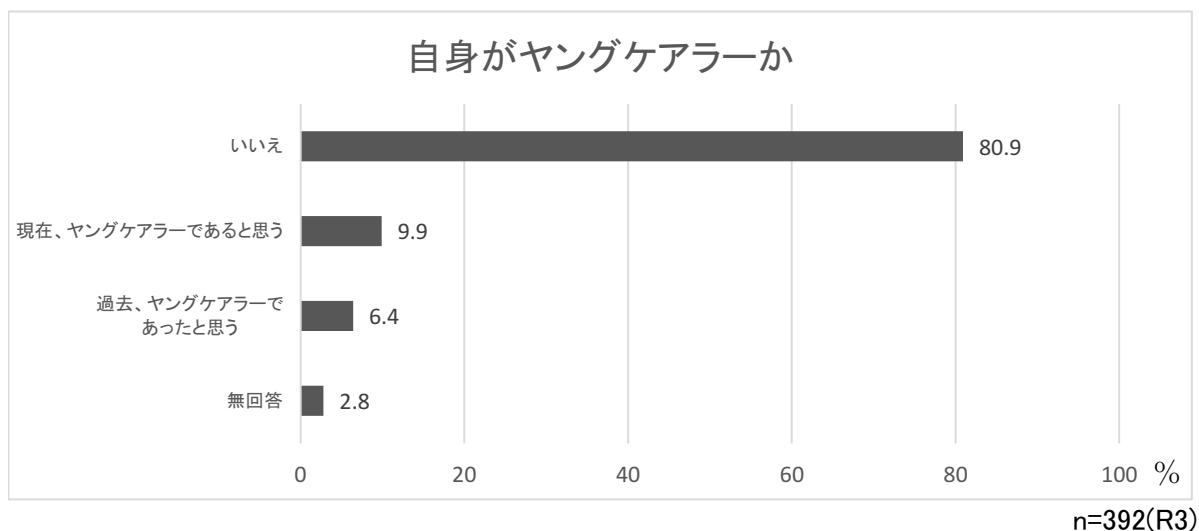
問8 「ヤングケアラー」という言葉や意味を知っていますか。(○は1つ)

「ヤングケアラー」の言葉の認知度は、「聞いたこともない」86%が最も多い回答となっています。



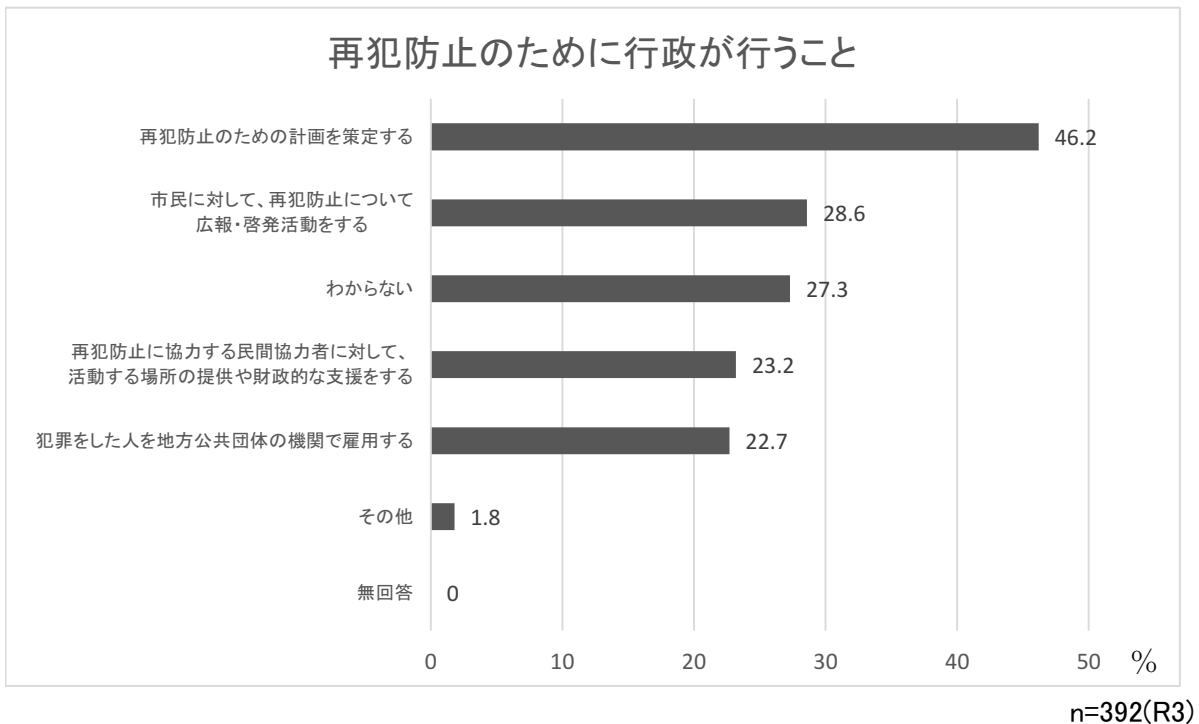
問9 あなた自身が、「ヤングケアラー」である、または、過去にそうであったと思いますか。(○は1つ)

「自身がヤングケアラーであるか」では、「現在、ヤングケアラーであると思う」が9.9%、「過去、ヤングケアラーであったと思う」が6.4%でした。



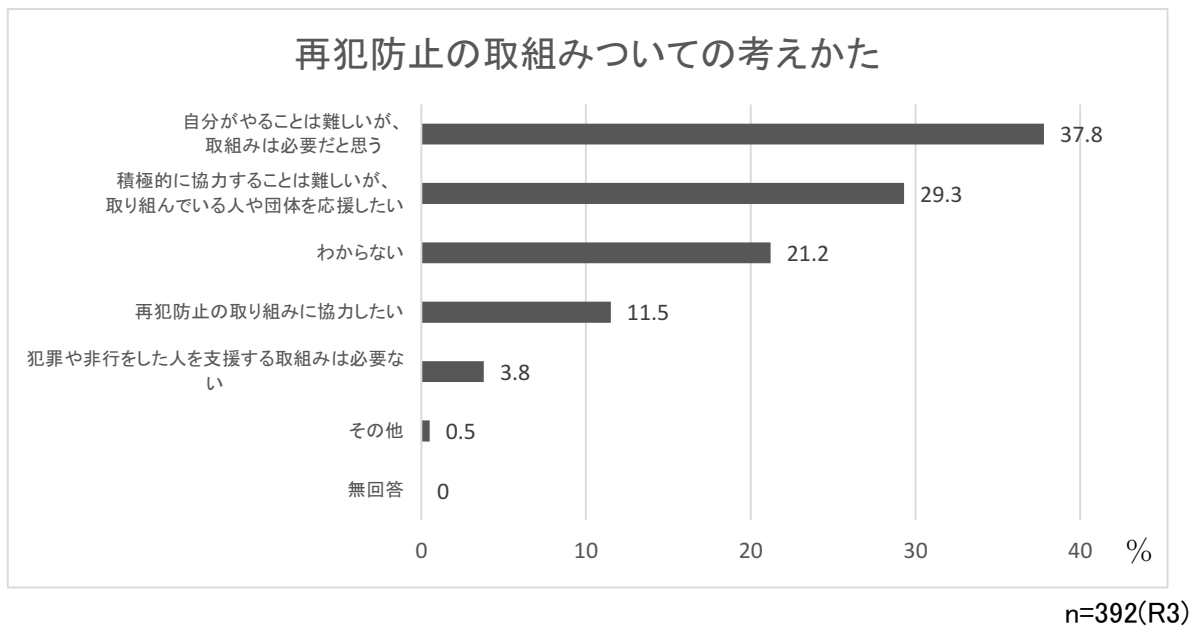
問10 再犯防止のために、行政が取り組むべきものはどれだと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

再犯防止のために行政が行うことでは、「再犯防止のための計画を策定する」46.2%が最も多い回答となっています。次いで「市民に対して、再犯防止について広報・啓発活動をする」28.6%、「再犯防止に協力する民間協力者に対して、活動する場所の提供や財政的な支援をする」23.2%となっています。



問11 再犯防止の取組みについての考え方は、次のどれに近いですか。(○は1つ)

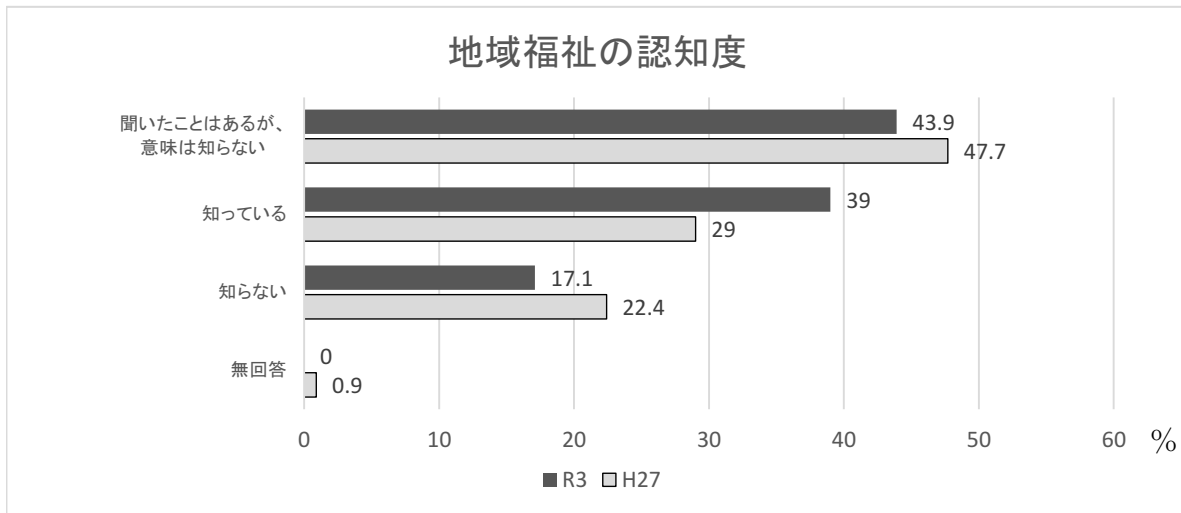
再犯防止の取組みについての考え方は、「自分がやることは難しいが、取組みは必要だと思う」37.8%が最も多い回答となっています。次いで「積極的に協力することは難しいが、取り組んでいる人(保護司等)や団体を応援したい」29.3%、「再犯防止の取組みに協力したい」11.5%となっています。



問12 「地域福祉」という言葉や意味を知っていますか。(○は1つ)

「地域福祉」の言葉の認知度は、「聞いたことはあるが、意味は知らない」43.9%が最も多い回答となっています。

前回の調査よりも、「知っている」と回答した人が10ポイント増えています。また、「知らない」と回答した人は、5.3ポイント減っています。

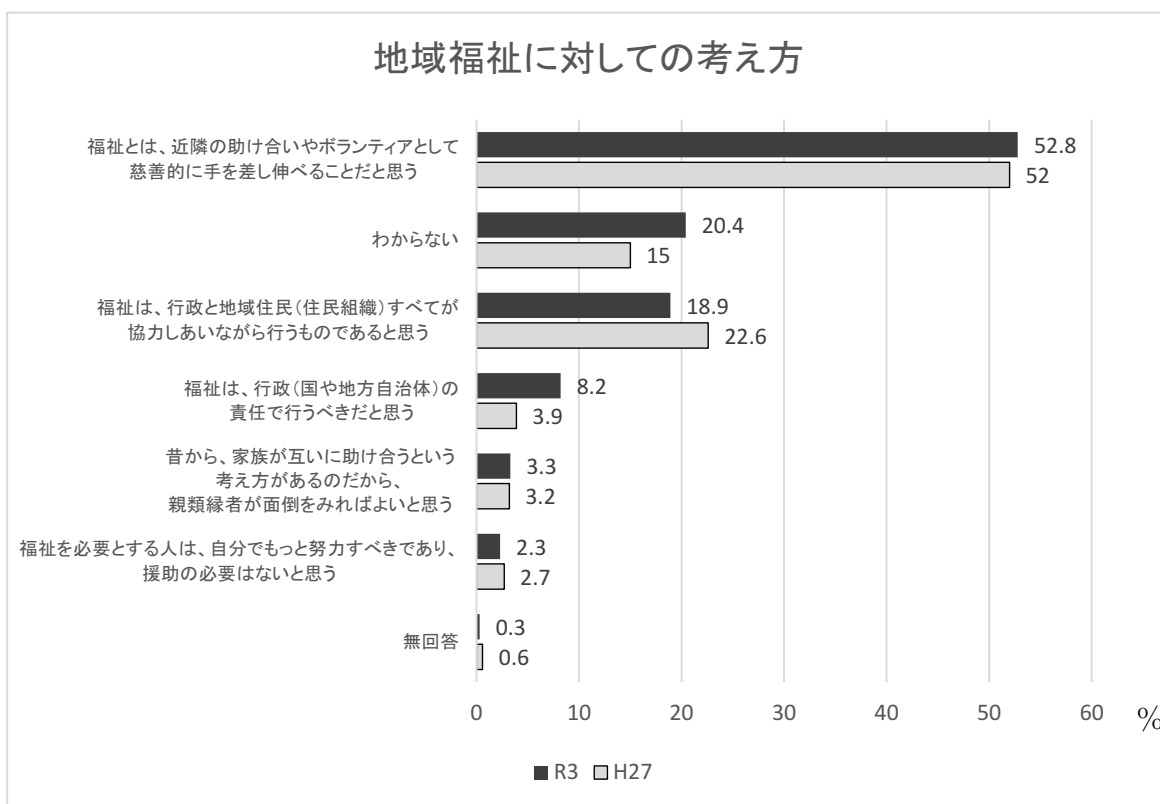


n=392(R3) n=660(H27)

問13 地域福祉に対する考え方は、次のどれに近いですか。(〇は1つ)

地域福祉に対する考えかたは、「福祉とは、近隣の助け合いやボランティアとして慈善的に手を差し伸べることだと思う」52.8%が最も多い回答となっています。次いで「福祉は、行政と地域住民(住民組織)すべてが協力しあいながら行うものであると思う」18.9%となっています。

前回の調査でも、「福祉とは、近隣の助け合いやボランティアとして慈善的に手を差し伸べることだと思う」、「福祉は、行政と地域住民(住民組織)すべてが協力しあいながら行うものであると思う」と回答した人の割合が高くなっていました。



n=392(R3) n=660(H27)

問14 誰もが安心して暮らすことができる、人と人が支え合う地域福祉を進めるために
ご意見ご要望がありましたら、どんな事でも結構ですので、ご記入ください。

地域福祉について、意見や要望を自由に記述してもらったところ、113名から回答がありました。代表的な意見を掲載します。

【地域福祉について】

- ・思いやりをもって生活すればどんな人でも暮らしやすくなると思う。協力し合うことは大切だと思う。
- ・地域の人との助け合い。地域をより活性化させる。
- ・一人一人の抱えている問題を知り、それを知人または地域全体で解決していく。
- ・たくさんの方が協力し、高齢者などが困らず安心して暮らせるようにしたい。
- ・高齢者を介護する人だけじゃなく周りの人や地域の方の協力も必要だと思う。

【福祉について】

- ・障がいがある人や病気を持っている人への対応の仕方を少しでも一人一人が知っておくべきだと思います。
- ・誰に対しても偏見や差別をなくし、みんながみんな平等に接し合う。
- ・社会福祉の授業量をふやしてほしい。理解が深まり、考え方が変わるから。
- ・障がい者への差別や偏見をなくしたほうがいい。

【道路について】

- ・道がガタガタしている場所の整備をすると安全に暮らせると思うし、車いすの人も通やすくなる。
- ・道路をもっと整備してほしい。車と自転車と歩行者が入り混じる危険な場所がある。
- ・公園などの階段には車いすの人が楽に進めるための道がないのでその道をつけて欲しいと思います。

【交流について】

- ・地域交流をもっと増やして誰でも関係がよくなるようにする。
- ・人と人が関わるきっかけにイベントや場所を作れば良いと思う。家から出てどこか楽しいところに行けるような環境が欲しい。
- ・地域の人たちが交流する場がもっと増えるといいと思います。
- ・人と人が支え合うには、日頃からの交流が必要だと思うので、自治体や行政で交流の場をつくるいいと思う。
- ・日常的にあいさつや会話などがあると交流が増えると思う。地域などで交流会があるとお互いの係わりが深くなると思った。
- ・大人、子供も関係なく地域の人たちとの交流する場があればよいと思う。
- ・住民一人一人が積極的に活動するように呼びかける。
- ・公民館みたいな感じで地域の人たちだけが使える場所を作る。そこで勉強会を開いたりとか、休憩できる場所として使う。地域の人との交流が増えると思います。
- ・小学生との交流が少ないので小さい子どもや小学生との交流を増やしてくれるといいと思います。

【ボランティア・NPOについて】

- ・ボランティアに参加できる機会が増えたらいいなと思う。
- ・安心して暮らすために一人一人が地域のボランティアに参加して協力し合っ
て障害がある人たちの支援や高齢者への支援などみんなでやっていけばいいと思う。
- ・気軽に参加できるボランティア活動を市で開催する
- ・ボランティア活動を増やす。

【安心・安全について】

- ・令和元年度東日本台風により、久喜市においてはまたいつ災害が起こってもおかしくない状態です。今こそ、市民でもう一度災害について考え直すべきです。ある人によると対策をしている都市と全くしていない都市では約3倍の費用がかかるそうです。起きてからでは遅いと思います。安全に暮らすためにも、市が積極的に取り組むと良いと思います。
- ・街燈を追加してもらいたいです。
- ・安全を守るために暗い時間になったらパトロールする。自分の住んでいる地域で危険な場所をいろいろな人に教えてあげる。
- ・近くに交番をもっと欲しい。

【その他】

- ・若年層への支援も増やしていくべきだと思う。なぜならこれからの日本経済を動かす人々だからだ。
- ・特定の年齢に限っただけの取組みや対策に焦点をあて続けるのではなく、高齢者や障がい者への対策や取組みが行われがちなので、若い世代への取組みも活発にしてほしい。
- ・ゴミのポイ捨てが多いと感じたので、学校を中心とした行事活動を行う美化や拾う人の気持ちになることができるためポイ捨ての防止につながると思います。
- ・もっと心を落ち着かせられる緑がある公園を増やして欲しい。

アンケート調査票(市民用)

久喜市の地域福祉に関するアンケート調査のお願い

市民の皆様には、日頃より市政に深いご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、久喜市と久喜市社会福祉協議会では、平成29年度から令和4年度までの6年間の計画期間とする、「みんなでつくる福祉のまち 第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画」を策定し、「ともに生き、ともに安心して暮らすことのできる地域社会づくり」を推進しています。

現在の計画は、令和4年度に目標年次を迎えるため、市では、令和5年度から令和9年度までの5年間の計画期間とする「第3次地域福祉計画・地域福祉活動計画」を策定することとしました。策定にあたり、市民の皆様の貴重なお考えやご意見を伺い、計画づくりに活かしていくため、このアンケート調査を行うものです。

お忙しいところ、大変恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和3年7月

久喜市長・久喜市社会福祉協議会会長 梅田 修一

◇ご記入にあたって◇

- ◇ この調査の対象は、久喜市にお住いの18歳以上の方2,000人を無作為に抽出してお願いしています。
- ◇ 抽出データは、令和3年6月1日現在のもので、この日以降、市外へ引っ越しをされた方や亡くなられた方に送付された場合はご容赦ください。
- ◇ お名前やご住所を書いていただく必要はありません。
- ◇ 調査結果は、すべて統計的に処理いたしますので、個人が特定されることはありません。なお、返信用封筒に記載されているバーコードは、料金受取人払い用の受取人認識のためのもので、個人を特定するものではありません。
- ◇ ご回答は、あて名にあるご本人がご記入くださいますようお願いいたします。(他の方がご本人のお答えをお聞きの上、代筆も可能です。)

すべての設問のご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒にアンケート調査票を入れ、切手をはらずに、8月17日(火)までに投函してください。

【問合せ先】

久喜市役所 福祉部 社会福祉課 電話:0480-22-1111(内線 3222~3224)
Eメール:shakaifukushi@city.kuki.lg.jp FAX:0480-23-0699

あなた自身のことについておたずねします。

問1 年齢は。(○は1つ)

- | | | | |
|--------|------------|--------|--------|
| 1. 10代 | 2. 20代 | 3. 30代 | 4. 40代 |
| 5. 50代 | 6. 60代 | 7. 70代 | 8. 80代 |
| 9. 90代 | 10. 100歳以上 | | |

問2 就労等の状況は。(○は1つ)

- | | |
|----------|--------------|
| 1. 勤めている | 2. 自営(農業も含む) |
| 3. 家事専業 | 4. 学生 |
| 5. 無職 | 6. その他() |

問3 お住まいの地区は。(○は1つ)

- | | |
|------------|--|
| 1. 本町地区 | (本町、上町、久喜新、久喜本、上早見、久喜北 野久喜、古久喜) |
| 2. 中央・南地区 | (久喜中央、南) |
| 3. 東地区 | (久喜東、下早見 54 区) |
| 4. 太田地区 | (西、吉羽、栗原、青毛、野久喜、古久喜、青葉) |
| 5. 江面地区 | (江面、下早見(54 区を除く)、北青柳、太田袋、樋ノ口、原、除堀) |
| 6. 清久地区 | (北中曾根、六万部、上清久、下清久、所久喜、清久町、河原井町) |
| 7. 菖蒲・三箇地区 | (菖蒲町菖蒲、菖蒲町新堀、菖蒲町三箇、菖蒲町台、菖蒲町河原井、
菖蒲町上大崎) |
| 8. 小林・栢間地区 | (菖蒲町小林、菖蒲町下栢間、菖蒲町上栢間、菖蒲町柴山枝郷) |
| 9. 栗橋・伊坂地区 | (栗橋、伊坂、栗橋北、栗橋中央、栗橋東、緑) |
| 10. 静・豊田地区 | (松永、間鎌、佐間、高柳、島川、小右衛門、中里、北広島、河原代、新井、
狐塚、南栗橋) |
| 11. 鷺宮地区 | (久本寺、葛梅、上内、鷺宮(鷺宮6丁目を除く)、中妻、鷺宮中央、栄、砂原) |
| 12. 桜田地区 | (八甫、東大輪、西大輪、外野、上川崎、鷺宮6丁目、桜田) |

問4 久喜市にお住まいになられて、何年になりますか。(○は1つ)

- | | | |
|------------|------------|----------|
| 1. 1年未満 | 2. 1年～5年 | 3. 6年～9年 |
| 4. 10年～19年 | 5. 20年～29年 | 6. 30年以上 |

問5 家族構成は。(○は1つ)

- | | | |
|---------------|-----------|-------------|
| 1. ひとり暮らし | 2. 夫婦のみ | 3. 2世代(親と子) |
| 4. 3世代(親と子と孫) | 5. その他() | |

“地域での助け合い、支え合い”についておたずねします。

問6 日頃ご近所とどの程度のお付き合いがありますか。(○は1つ)

1. 困っているとき、相談や助け合いができる
2. 簡単な頼みごと程度ならできる
3. たまに世間話や立ち話をする程度
4. 顔を会わせればあいさつをする程度
5. ほとんど付き合いがない(ほとんど顔も知らない)
6. その他()

問7 過去5年間に地域活動に参加したことがありますか。(○は1つ)

1. 参加したことがある

2. 参加したことがない

参加したことがある場合問7-1へ

参加したことがない場合問7-2へ



問7-1 参加した地域活動

(あてはまるものすべてに○)

1. 一斉清掃
2. 地域のまつり
3. 地区運動会・スポーツ大会
4. 資源回収
5. 地区文化祭
6. 小中学校行事
7. 老人クラブ活動
8. 団体活動
9. 防災訓練
10. 育児支援活動
11. ボランティア活動
12. その他の行事
()

問7-2 参加していない理由

(○は3つまで)

1. 仕事や家事で忙しい
2. 育児や家族の介護などで時間がない
3. 健康や体力に自信がない
4. 活動の内容や参加する方法がわからない
5. 地域活動をするうえでの経済的負担が大きい
6. 家族の理解がない
7. 地域にあまり関わりたくない
8. 地域活動は必要がない
9. 興味や関心がない
10. その他()

問8 日常生活で困っていることは誰に相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|-------------------------|-------------|---------------|
| 1. 家族 | 2. 親戚 | 3. 知人・友人 |
| 4. 近所の人 | 5. 市役所 | 6. 地域包括支援センター |
| 7. 民生委員・児童委員 | 8. 自治会長・区長 | 9. かかりつけの医師 |
| 10. 福祉サービス事業者 | 11. 社会福祉協議会 | |
| 12. ボランティア団体・NPO 法人 | 13. その他() | |
| 14. <u>相談していない(しない)</u> | | |



問8-1 問8で「14.相談していない(しない)」を選んだ方におうかがいします。

その理由は何ですか。(○は1つ)

1. 自分でぎりぎりまで頑張りたいから
2. 今は何とかなっているから
3. 誰に相談すればいいかわからないから
4. 気軽に相談できる相手がないから
5. 自分や家族のことを他人に知られたくないから
6. その他()

問9 地域の人にしてほしい手助けはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 安否確認や見守り
2. 訪問などによる話し相手
3. 軽易な家事援助、買い物の手伝い
4. 通院など外出するときの送迎
5. 短時間の子どもの預かり
6. 災害など緊急時の手助け(安否確認、避難所への誘導など)
7. その他()
8. 特にない

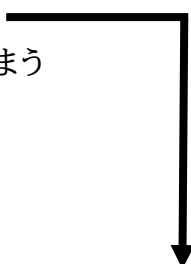
問10 地域での支援を過去に必要としたことがありますか。

または、現在必要としていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 過去に必要としたことがある
2. 現在必要としている
3. 過去にも現在にも必要としていない
4. わからない

問11 困ったときに地域の人に手助けを求められますか。(○は1つ)

1. 手助けを求めることができる
2. 手助けを求めたいが、遠慮してしまう
3. 手助けを求められない
4. 手助けを求めたくない
5. わからない



問11—1 問11で「1. 手助けを求めることができる」を選んだ方におうかがいします。

次の地域の人の中で手助けを求められる人はいますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------|------------|
| 1. 近所の人 | 2. 知人・友人 |
| 3. 民生委員・児童委員 | 4. 自治会長・区長 |
| 5. ボランティア団体やNPO法人 | 6. その他() |
| 7. わからない | |

問12 お住いの地域でできる手助けはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 安否確認や見守り
2. 訪問などによる話し相手
3. 軽易な家事援助、買い物の手伝い
4. 通院など外出するときの送迎
5. 短時間の子どもの預かり
6. 災害など緊急時の手助け(安否確認、避難所への誘導など)
7. その他()
8. 特にない

問13 お住まいの地域で課題と感じていることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 住民同士の交流の場の不足
2. 高齢者や障がい者が暮らしやすい施設や住宅、道路の整備
3. 一人暮らしの高齢者や障がい者への生活支援
4. 高齢者や障がい者の介護をしている家族等への支援
5. 高齢者や障がい者の社会参加や生きがいづくり
6. 子育て環境
7. 青少年の健全育成
8. 防犯・防災などの地域の安全対策
9. 経済的な困窮者への支援
10. 健康増進のための機会や場の不足
11. その他()
12. 問題があると感じていない

問14 お住まいの地域で課題と感じていることに対し、住民が相互に協力するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1. 自治会や町内会が中心となって、市民相互の交流を進める
2. 住民が、自ら進んで相互のつながりを持つようにする
3. 住民が、地域の活動に積極的に参加する
4. ボランティアやNPOの活動を盛んにする
5. 地域の人が気軽に集まれる場所をつくる
6. 行政が地域活動の相談や情報提供など、支援体制を充実する
7. その他()
8. わからない

問15 災害が起こった場合に、住民がお互いにどのような支援をすることが必要だと考えますか。(あてはまるものすべてに〇)

1. 災害直後の安否確認や声かけ
2. 災害や避難に関する情報提供
3. 避難所などへの移動の支援
4. 避難所の運営の協力
5. その他()
6. 支援は特に必要ない
7. わからない

問16 災害時に住民が支えあう地域づくりには、何が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1. 日頃からのあいさつ、声かけやお付き合い
2. 防災などに関する勉強会(危険な箇所の把握など)
3. 地域の高齢者などがどこに住んでいるか一目でわかるマップ(地図)の作成(地域に居住する災害時要援護者の把握)
4. 平時から避難するときに支援を必要とする人の避難行動の確認
5. 地域での定期的な避難訓練
6. 自主防災組織づくり(地域住民で結成する防災組織)
7. 福祉サービスなどを提供する施設や事業者との連携
8. その他()
9. わからない

“ボランティア活動等”についておたずねします。

問17 ボランティアやNPO(営利を目的としないで社会貢献活動や慈善活動を行う市民活動団体)の活動に参加したことがありますか。(○は1つだけ)

1. 参加している
2. 以前に参加したことがある
3. 参加したことがない

問17-1(問17で「1.参加している」または「2.以前に参加したことがある」を選んだ方へ)

どのような活動に参加してきましたか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 高齢者の支援 | 2. 障がい者・児の支援 |
| 3. 子育ての支援や子どもの世話 | 4. 自然や環境保護に関する活動 |
| 5. 国際交流に関する活動 | 6. 青少年の健全育成に関する活動 |
| 7. スポーツ・文化に関する活動 | 8. 災害救助、復興支援の活動 |
| 9. その他() | |

問17-2(問17で「3.参加したことがない」を選んだ方へ)

参加したことがない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 仕事や家事で忙しい
2. 育児や家族の介護などで時間がない
3. 健康や体力に自信がない
4. 活動の内容や参加する方法がわからない
5. 活動するうえでの経済的負担が大きい
6. 知り合いがいらない
7. 自分の趣味や余暇活動を優先したい
8. つきあいになじめない
9. 興味や関心がない
10. その他()

問18 「ヤングケアラー」という言葉や意味を知っていますか。(○は1つ)

1. 知っている 2. 聞いたことはあるが、意味は知らない 3. 知らない

● ヤングケアラーとは ●

本来大人がすると想定されているような家事や家族の世話などを日常的に行っている18歳未満の若者のことを指します。

問19 あなたの周囲で、「ヤングケアラー」であると思われる人がいますか。(○は1つ)

1. いる 2. いない 3. わからない

問20 ボランティアやNPO(営利を目的としないで社会貢献活動や慈善活動を行う市民活動団体)の活動を活発にするためには、どのようなことが必要だと思いませんか。

(○は3つまで)

1. ボランティアやNPOの活動の大切さを学校で教える
2. ボランティアやNPOの活動の大切さを生涯学習で広める
3. 活動の内容などの情報を住民に提供する
4. 活動に関する相談体制を充実する
5. 体験活動など、初めての人も参加しやすいようなきっかけづくりを行う
6. 活動の拠点となる場所を確保する
7. 活動団体等へ資金の援助をする
8. 交通費などの実費が支払われるようにする
9. 活動のリーダーとなる人を育成する
10. 地域福祉の実践者の育成やボランティアセンターの機能を強化する
11. その他()
12. わからない

“再犯防止”についておたずねします。

問21 「社会を明るくする運動」という言葉や内容を知っていますか。(○は1つ)

1. 知っている 2. 聞いたことはあるが、内容は知らない 3. 知らない

● 社会を明るくする運動とは ●

全ての国民が、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、安全で安心な地域社会を築くための全国的な運動です。

問 22 再犯防止のために、行政が取り組むべきものはどれだと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 再犯防止のための計画を策定する
2. 犯罪をした人を地方公共団体の機関で雇用する
3. 市民に対して、再犯防止について広報・啓発活動をする
4. 再犯防止に協力する民間協力者に対して、活動する場所の提供や財政的な支援をする
5. その他()
6. わからない

● 再犯防止 ●

安全で安心して暮らせる社会を実現するためには、犯罪や非行の繰り返しを防ぐ「再犯防止」が重要となっています。

問 23 再犯防止の取り組みについての考え方は、次のどれに近いですか。(○は1つ)

1. 再犯防止の取り組みに協力したい
2. 積極的に協力することは難しいが、取り組んでいる人(保護司等)や団体を応援したい
3. 自分がやることは難しいが、取り組みは必要だと思う
4. 犯罪や非行をした人を支援する取り組みは必要ない
5. その他()
6. わからない

“成年後見制度”についておたずねします。

問 24 成年後見制度を知っていますか。(○は1つ)

1. 知っている
2. 聞いたことはあるが、内容は知らない
3. 知らない

● 成年後見制度とは ●

認知症・知的障がい、精神障がいなどによって物事を判断する能力が十分ではない方について、本人の権利を守る援助者(成年後見人等)を選び、本人を法的に支援する制度です。具体的には、本人に代わって財産管理や福祉サービス等の契約を結ぶなどの行為を行います。利用するには、家庭裁判所への申立が必要です。

問 29 困りごとがあったときに、相談できる場、支援を受けることができる環境等が整備されていると思いますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|---------------|
| 1. 思う | 2. どちらかというと思う |
| 3. どちらともいえない(わからない) | 4. あまり思わない |
| 5. 思わない | |

問 30 今後、様々な福祉の相談をすることになった時、相談機関にはどんなことを求めますか。(あてはまるものすべてに○)

1. どこに相談したらよいか知らせてくれる案内や広報がある
2. いつでも相談できる場所や時間が確保されている
3. 自分が相談機関に行けなくても、相談機関の方が来てくれるような体制が確保されている
4. 気軽に相談できそうな雰囲気がある
5. ひとつの窓口で、いろいろな相談をすることができる
6. 専門性があり、解決に結びつけることができる
7. その他()
8. 特にない

問 31 今後、地域福祉を充実させるために、優先的に取り組むべきものについて、次の中から選んでください。(○は3つまで)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 福祉教育の充実 | 2. 地域における災害時の体制整備 |
| 3. 地域福祉に関連する人材の育成 | 4. 福祉サービス(種類)の充実 |
| 5. 福祉サービスの質の向上 | 6. 福祉に関する相談体制の充実 |
| 7. 権利擁護事業の推進 | 8. 関係機関の連携の推進 |
| 9. 情報提供体制の整備 | 10. ボランティアとの協働 |
| 11. NPOとの協働 | 12. 福祉事業者との協働 |
| 13. 福祉に関連する事業者の育成 | 14. 地域活動への参加の促進 |
| 15. 世代間交流の促進 | 16. その他() |

“久喜市社会福祉協議会”についておたずねします。

問 32 久喜市社会福祉協議会という名前や久喜市社会福祉協議会の活動を知っていますか。(○は1つ)

1. 名前も活動もよく知っている
2. 名前は知っているが、活動はよく知らない
3. 名前も活動も知らない
4. その他()

● 社会福祉協議会(社協)とは ●

地域福祉の推進を目的として、国、各都道府県、全国の市区町村にそれぞれ設置されています。地域住民の身近な相談機関として、様々な困りごとや制度の狭間にある福祉課題に対し、住民をはじめ、様々な関係機関及び団体、行政などと協働し、共に課題解決に向けて取り組む民間の非営利団体です。

問 33 久喜市社会福祉協議会の活動について、知っている活動を教えてください。
(あてはまるものすべてに○)

1. 福祉の総合相談窓口(福祉なんでも相談等)
2. 赤い羽根共同募金、歳末たすけあい募金
3. 福祉に関する講座や福祉教育の実施
4. ボランティアへの支援やボランティア活動の紹介
5. 地域での見守り・支え合い活動、地域の居場所づくりや交流活動の推進(福祉委員・ふれあい・いきいきサロン等)
6. 地域包括支援センターや居宅介護支援事業所等の介護保険制度に基づく介護相談・支援
7. 手話通訳者派遣事業
8. 住民参加型の生活支援サービス(くき元気サービス・福祉有償運送等)
9. 高齢者や障がい者に対する法人後見事業や権利擁護(あんしんサポートねっと他)事業の実施
10. 生活困窮者の相談支援や生活福祉資金の貸付
11. 福祉の専門職や関係機関のネットワークづくり
12. 車いす・福祉車両の貸出・紙おむつの配布等、福祉サービスの実施
13. 障がい者施設の運営(久喜市けやきの木・久喜市くりの木)
14. 災害ボランティアセンターの運営
15. 社協だよりの発行や YouTube 等による福祉の情報発信
16. その他()

問 34 久喜市社会福祉協議会では、制度の狭間で困りごとを抱える方や、日常生活のちょっとした困りごとや見守り等の支援を必要としている方の支援を行うため、住民参加による助け合いやボランティア活動を推進しています。
これらの活動を活発にするためには、久喜市社会福祉協議会ではどのような取り組みが重要だと思いますか。（〇は3つまで）

1. 地域福祉の意義や助け合い活動の重要性を PR する
2. 学校や地域での福祉教育を充実する
3. 助け合い活動やボランティアに関するわかりやすい情報を提供する
4. 困っている人と支援ができる人との調整を図るコーディネーターの機能や相談体制を強化する
5. 活動を始めたい人や人材育成のための講座や研修を行う
6. 住民同士が出会い、交流や情報交換ができる場や機会を増やす
7. 活動団体等への資金面の援助
8. 活動に関する相談体制を充実する
9. 住民と一緒に困りごとや福祉課題を出し合い、解決に向けた取り組みを行う組織づくりの推進
10. その他()
11. わからない

問 35 地域福祉を進めていくうえでご意見がございましたら、ご自由にお書きください。

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

なお、大変お手数ですが、このアンケート用紙を折って同封の返信用封筒に入れ、**令和3年8月17日(火)**までにご投函くださいますようお願いいたします。

アンケート調査票(高校生用)

久喜市の地域福祉に関するアンケート調査のお願い

久喜市と久喜市社会福祉協議会では、平成29年度から令和4年度までの6年間を計画期間とする、「みんなでつくる福祉のまち 第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画」を策定し、「ともに生き、ともに安心して暮らすことのできる地域社会づくり」を推進しています。

現在の計画は、令和4年度に目標年次を迎えるため、市では、令和5年度から令和9年度までの5年間を計画期間とする「第3次地域福祉計画・地域福祉活動計画」を策定することとしました。

策定にあたり、皆様の貴重なお考えやご意見を伺い、計画づくりに活かしていくため、このアンケート調査を行うものです。

今回の調査は、市内にある県立高等学校に通学している高校生の中から約450人を無作為に抽出し、無記名で回答をお願いするものです。

ご回答いただいた内容は、すべてコンピューターで統計的に処理しますので、個々の内容が他に漏れたり、統計の目的以外に使用することは一切ありません。

調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和3年7月

久喜市長・久喜市社会福祉協議会会長 梅田 修一

◇ご記入にあたって◇

- ◇質問によっては回答する方を限定しているものもありますので、質問の流れに従ってお答えください。
- ◇お答えは、あなたのお考えに最も近いと思われる回答の番号を○で囲んでください。選択肢の場合、○の数は質問により異なりますのでご注意ください。
- ◇「その他()」に○をつけたときは、()内に具体的な内容をご記入ください。

回答が終わったアンケートは、
担当の先生に提出してください。

【問合せ先】

久喜市役所 福祉部 社会福祉課 電話:0480-22-1111(内線 3222~3224)
Eメール:shakaifukushi@city.kuki.lg.jp FAX:0480-23-0699

問4 お住まいの地域で課題と感じていることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 住民同士の交流の場の不足
2. 高齢者や障がい者が暮らしやすい施設や住宅、道路の整備
3. 一人暮らしの高齢者や障がい者への生活支援
4. 高齢者や障がい者の介護をしている家族等への支援
5. 高齢者や障がい者の社会参加や生きがいづくり
6. 子育て環境
7. 青少年の健全育成
8. 防犯・防災などの地域の安全対策
9. 生活困窮者への支援
10. 健康増進のための機会や場の不足
11. その他()
12. 問題があると感じていない

問5 お住まいの地域で課題と感じていることに対し、住民が相互に協力するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 自治会、町内会が中心となって、市民相互の交流を進める
2. 住民が、自ら進んで相互のつながりを持つようにする
3. 住民が、地域の活動に積極的に参加する
4. ボランティアやNPOの活動を盛んにする
5. 地域の人が気軽に集まれる場所をつくる
6. 行政が地域活動の相談や情報提供など、支援体制を充実する
7. その他()
8. わからない

問6 災害が起こった場合に、住民がお互いにどのような支援をすることが必要だと考えますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 災害直後の安否確認や声かけ | 2. 災害や避難に関する情報提供 |
| 3. 避難所などへの移動の支援 | 4. 避難所の運営の協力 |
| 5. その他() | |
| 6. 支援は特に必要ない | 7. わからない |

“ボランティア活動等”についておたずねします。

問7 参加したことがある、または、参加してみたいボランティア活動はどれですか。

①～⑨それぞれについてお答えください。

(参加状況、今後の参加希望それぞれ1つずつに○)

		現在の状況		今後の参加希望		
		参加したことがある	参加したことがない	参加したい	参加したくない	わからない
①	高齢者への支援(老人ホームなどへの訪問や手伝い)	1	2	1	2	3
②	障がいがある大人や子どもへの支援(手助け、遊び、勉強などの交流)	1	2	1	2	3
③	子育ての支援や子どもの世話(子ども会活動や子どもの遊び相手など)	1	2	1	2	3
④	自然や環境保護に関する活動(花壇作りやゴミ拾いなど)	1	2	1	2	3
⑤	国際交流に関する活動	1	2	1	2	3
⑥	青少年の健全育成に関する活動	1	2	1	2	3
⑦	スポーツ・文化に関する活動	1	2	1	2	3
⑧	災害救助、復興支援の活動	1	2	1	2	3
⑨	その他()	1	2	1	2	3

(ボランティア活動に参加したことがある方にお聞きします)

問7-1 誰と一緒にボランティア活動をしましたか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|-----------|-------------|--------|
| 1. 個人で | 2. 家族で | 3. 友達と |
| 4. 近所の人と | 5. グループ・団体で | 6. 学校で |
| 7. その他() | | |

問7-2 ボランティア活動をしたきっかけは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1. 学校の活動だったから | 2. 人に誘われたから |
| 3. するのが当然だと思ったから | 4. 何か人のために役に立ちたかったから |
| 5. おもしろそうだったから | 6. 親にすすめられて |
| 7. ボランティアの経験をしてみたかったから | |
| 8. 困っている人や団体などから頼まれたから | |
| 9. その他() | |

(ボランティア活動にまったく参加したことがない、または、今後、参加したくないと回答した方にお聞きします)

問7-3 それはどんな理由からですか。(○は3つまで)

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 興味がない | 2. 勉強や部活などで時間がない |
| 3. 必要性を感じない | 4. 恥ずかしい |
| 5. 一緒に活動する人がいない | 6. 家族や友人に止められた |
| 7. 参加の仕方がわからない | 8. きっかけがない |
| 9. その他() | |

問8 「ヤングケアラー」という言葉や意味を知っていますか。(○は1つ)

1. 知っている
2. 聞いたことはあるが、意味は知らない
3. 聞いたこともない

● ヤングケアラーとは ●

本来大人がすると想定されているような家事や家族の世話などを日常的に行っている18歳未満の若者のことを指します。

問9 あなた自身が、「ヤングケアラー」である、または、過去にそうであったと思いますか。(○は1つ)

1. 現在、ヤングケアラーであると思う
2. 過去、ヤングケアラーであったと思う
3. いいえ

“再犯防止”についておたずねします。

問 10 再犯防止のために、行政が取り組むべきものはどれだと思いますか。
(あてはまるものに○)

1. 再犯防止のための計画を策定する
2. 犯罪をした人を地方公共団体の機関で雇用する
3. 市民に対して、再犯防止について広報・啓発活動をする
4. 再犯防止に協力する民間協力者に対して、活動する場所の提供や財政的な支援をする
5. その他()
6. わからない

● 再犯防止 ●

安全で安心して暮らせる社会を実現するためには、犯罪や非行の繰り返しを防ぐ「再犯防止」が重要となっています。

問 11 再犯防止の取り組みについての考え方は、次のどれに近いですか。
(○は1つ)

1. 再犯防止の取り組みに協力したい
2. 積極的に協力することは難しいが、取り組んでいる人(保護司等)や団体を応援したい
3. 自分がやることは難しいが、取り組みは必要だと思う
4. 犯罪や非行をした人を支援する取り組みは必要ない
5. その他()
6. わからない

“地域福祉”についておたずねします。

問 12 「地域福祉」という言葉や意味を知っていますか。(○は1つ)

1. 知っている 2. 聞いたことはあるが、意味は知らない 3. 知らない

● 地域福祉とは ●

「地域福祉」とは、子どもや高齢者、障がいのある人もない人も、誰もが家庭や住み慣れた地域の中で、自分らしくいきいきと安心して生活ができるように、『共に生き、支え合う社会づくり』を進めていくことです。地域の支え合いによる福祉ともいえます。

問 13 地域福祉に対する考え方は、次のどれに近いですか。(○は1つ)

1. 福祉とは、近隣の助け合いやボランティアとして慈善的に手を差し伸べることだと思う
2. 福祉を必要とする人は、自分でもっと努力すべきであり、援助の必要はないと思う
3. 福祉は、行政(国や地方自治体)の責任で行うべきだと思う
4. 昔から、家族が互いに助け合うという考え方があるのだから、親類縁者が面倒をみればよいと思う
5. 福祉は、行政と地域住民(住民組織)すべてが協力しあいながら行うものであると思う
6. わからない

問14 誰もが安心して暮らすことができる、人と人が支え合う地域福祉を進めるためにご意見ご要望がありましたら、どんな事でも結構ですので、ご記入ください。

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

回答が終わったアンケートは、担当の先生に提出してください。